希望の大地の戯曲

# 北海道戯曲賞

## 平成26年度受賞作品集

主　催　北海道舞台塾実行委員会（北海道、公益財団法人北海道文化財団）
助　成　一般財団法人地域創造

北海道戯曲賞　平成26年度受賞作品集

北海道舞台塾実行委員会

希望の大地の戯曲

# 北海道戯曲賞

## 平成26年度受賞作品集

# 目次

■大賞
悪い天気　作・藤原達郎　1
■優秀賞
乗組員　作・島田佳代　77
あとがき　139

大賞

# 悪い天気

作・藤原達郎

## 登場人物

男
女
男2

公園。
夜。
男と女がベンチに座っている。
ベンチの背後に茂みがあり、前には外灯が立っている。
飲みかけのビールと食べかけのお菓子。
傘が1本。
天気が悪いのか、空がごろごろと言う。

**女**　（空を見上げて）これは、もうすぐ来るわね。
**男**　…（お菓子でちまちまと何かを作っている）
**女**　ひざに来るの、わたし。
**男**　（作りながら）…え？
**女**　わかるのよ、あぁ、もうすぐねって。
**男**　…なにが？
**女**　天気よ。
**男**　…悪いだろう。
**女**　そうよ、悪さが、ひざに来るの。
**男**　…悪さが？
**女**　なんだか、うずくの。
**男**　あぁ、気圧の話？（お菓子が1つ、ころころと落ちる。目で追う。拾わない）
**女**　気圧…そうかしら。
**男**　（お菓子を目で追ったまま）気圧の関係で、ひざがうずくんだろう？

女　そういうことなのかしら。ただ、わかるのよ、あぁ、もうすぐねって。
男　…便利なの？
女　昔、やっちゃったのよ、ちょっと、走り高跳びで。選手だったの、背面跳び。踏み切る時に、こう…ねじり上がるように飛ぶのよ。それでね、ひざを、ちょっと。
男　…あぁ。（ちまちまと作る。）
女　ねじり…まあ言葉で言うとねじり上がるっていうことになるんだけれど、ニュアンスがいまいち伝わらないわ。見てもらった方が早いか。（立つ）
男　え、いいよ、それは。
女　（実演して）こう、腰からひねって…踏み切り足、こっち、ここよ、ここ、見てほらここ。（踏み切り足を指す）
男　あぁ、見たよ。（見てない）
女　こうひねったあと、バネをつけるためいったん沈んで…ねじり、上がるのよ！（ねじり上がる）…わかった？
男　…できた。
女　…何？
男　ほら。（柿の種とピーナッツで、それぞれ顔を作っている）
女　…何、これ？
男　顔。
女　…誰の？
男　…柿くんと、ピーナッツちゃん。
女　…
男　「やあ、柿くんです」「どうも、ピーナッツちゃんです」

女　…（顔のパーツを食べる）
男　「ぎゃあ、やめてくれえ、俺の目があ…」
女　（食べる）
男　…俺は、かゆいよ。
女　…え？
男　アトピーなんだ。
女　知ってるわ。（お菓子を手の平にいくつか乗せ、歩きながら食べる）
男　天気がくずれるとかゆいんだ。
女　あなた、季節の変わり目もそう言ってたじゃない。
男　季節の変わり目もそうなんだよ。でも、天気がくずれてもかゆいんだ。
女　…大変？
男　慣れたよ。
女　…半月板っていうのがあってね。
男　…え？
女　あるのよ、ひざに、半月板。
男　あぁ…。
女　それをちょっと、あれしちゃったのよ…おいしいわね、これ。
男　柿の種とピーナツ、どっちが先になくなるタイプ？
女　「ぽくっ」って鳴るの。
男　ピーナツが？
女　ひざが。
男　…ひざ？

**女**　そう。内部で鳴ってる音なんだけど、外にも聞こえるくらいの音量で、砲丸投げの佐藤が「お前、踏み切る時、なんか『ぽくっ』て言ってない？」って…

**男**　ふん…（身体をかく）

**女**　そんな、ね、ひざがぽくって鳴るぐらい、どうってことないわ。そんなことで好きな陸上辞められるわけがないじゃない。「どう、ユニークなひざでしょ？」って、ジョークにしてやったわよ、当時。

**男**　ふふふ…

**女**　でも、それがよくなかったのよね。ぽくぽく言いながら飛び続けているうちに限界がきて、とうとう飛べなくなってしまったの。

**男**　…大丈夫？

**女**　いや、たいしたあれじゃあなかったの。ちょっとしたあれで。ほら、日常生活にはなんの支障もきたさないわ。ただね、治ってからも、うずくの。

**男**　気圧の関係で？

**女**　…さあ、どうかしら、わからないわ。

**男**　あれ…なんだっけな。（お菓子を食べる）

**女**　…何？

**男**　…あれ、ほら、成分の名前。

**女**　…半月板の？

**男**　かゆみのだよ。それ以外にないだろ？

**女**　…あぁ。

**男**　あの、ほら、なんとかミンみたいな。

**女**　…知らないわ。

男　カユミン…まあ、いいか、仮に、カユミンで。
女　…
男　身体をかくと、キズになるだろ？そのキズが治る過程で、カユミンが分泌されるんだ。多いんだよ、分泌量が、アトピーの人は。だから治る前に、またかいてしまう。その繰り返しだよ。
女　…あぁ。（茂みの辺りで、木の枝を拾う）
男　人の皮膚の厚さが１００として、０だとキズむき出しの状態な。で、アトピーの人は50くらいまで回復すると、カユミンのせいでまた患部をかいてダメージを与えちゃうから、いつまでたっても１００にならないんだ。（お菓子を食べる）
女　それは、私の面の皮が厚いってこと？
男　…え？
女　皮よ、面の。
男　そんなこと言ってないだろう。何、面の皮？
女　恥を知れとでも言いたいのかしら。
男　アトピーのことを言ってるんだよ。
女　ふふふ…
男　…なんだよ。
女　半月板はね、自然治癒しないの。
男　アトピーもだよ。
女　病院でちゃんとあれしないといけないの。
男　そうさ。ステロイド剤でかゆみを抑えるんだ。
女　半月板がぽくぽく鳴った時、陸上部のみんなで私のひざについて話し合ったわ。続け

るかどうかの瀬戸際だったから。そうしたら、新聞部の田村くんが教室の窓から顔を出して言ったの。「満月は？」って。その場にいた全員が茫然としたわ。

**男**　でも、ステロイド剤は使えば使うほど、その効き目が弱まってくるんだ。慣れるんだ、身体が。だからどんどん強い薬を使うはめになる。悪循環だよ。

**女**　…飛べない鳥っていうのはね、飛べない代わりに、走ることや泳ぐことの能力を伸ばし、厳しい野生を生き延びていくの。そうやって適応できない者たちは、進化の過程で淘汰され、滅びるのよ。

**男**　…まあ、アルコールを摂取してもかゆいんだけれどね。上がるから、体温が。基本的に年中かゆい。（身体をかく）

**女**　なぜあの時…砲丸投げの佐藤が「お前のひざぽくぽく言ってない？」って言った時、なぜ大事をとらなかったのか。なぜあの時、自分の身体を過信したのか。そのことを思い出すたびに、こう…（胸を押さえ）このあたりが、うずくのよねぇ…

**男**　（舞台袖を見て）…窓、あけてきちゃったな。

**女**　…え？

**男**　うちの。（指さして）ほら。

**女**　…ほんと。

女、ベンチに座る。
男と女、ビールを飲む。
空がごろごろと言う。

**男**　（女の持っている枝を見て）それ、どうしたの？

**女**　拾ったの。いいでしょ？

男　どこで？
女　そこよ。
男　ふ〜ん。（茂みのあたりに行ってみる）
女　…もうないわ。
男　わからないだろ。
女　ないわよ。

女、木の枝をいじる。
男、探す。

男　…ないな。
女　ないわよ、そんな。
男　ちょっと貸して。
女　（木の枝を貸す）
男　（振ってみる）
女　…いいでしょ。
男　（振る）…まあまあだな。
女　私のよ。
男　（振る）
女　しっくりくるのよ。
男　（振る）
女　…もういいでしょ。返して。
男　（返す）

女　ふふふ…
男　俺も何か、ないかな（辺りを探す）
女　…夢を見たの。
男　（探しながら）…へえ。
女　あなたが私にプレゼントをくれるのよ。
男　…え？
女　プレゼントよ、くれるの、私に。
男　…ないな。
女　誕生日なのか、それとも他のお祝い事なのか…くれるのよ、とにかく。
男　（女を見て）え、俺が、何か、するの？
女　プレゼントよ。言ってるじゃない、私にくれたんだって。
男　…いつ？
女　だから、夢の話。
男　あぁ、そうか…うん。
女　私が何をほしがってるのか、あなたわかる？
男　（探しながら）なんだろう…アクセサリー？
女　ちがうわ。
男　…じゃあ…洋服？
女　いいえ。
男　…ん、
女　…ねえ、なんだと思う？
男　…え、何、もう一回言って。

女　…いいのよ。ほしいものなんてころころ変わるんですもの。私が言いたいのは、そういうことじゃあないの。
男　…あぁ。
女　私ね、猫を飼いたいの。
男　（何かを見つけて）…あ、
女　…何？
男　丸い石だ。（拾う）つるつるしてるよ。
女　さわらせて。
男　じゃあ、枝、貸して。
女　…ちょっとよ。

男と女、木の枝と丸い石を交換する。

女　（さわって）ほんと、つるつるしてる。
男　（振って）…だろ？
女　よくあったわね、こんなに丸いの。
男　落ちてたんだ。意外とあるんだよ、探せば。
女　…そうね。
男　（振る）
女　いいでしょ、私の枝。
男　あぁ…（振る）
女　…
男　（振る）

女　…返して。
男　…あぁ。

男と女、木の枝と丸い石を交換する。

男　…なんだっけ？
女　夢の話よ。
男　あぁ、そうだ。（石を見る）
女　さっき言ったばかりじゃないの。（木の枝を見る）
男　忘れるんだよ、飲んでるから。
女　…酔ったの？
男　酔ってない、酔っていないよ。ただちょっと、忘れたんだ。
女　…そう。

外灯がチカチカする。

男　（見て）おや、外灯が…
女　調子が悪いのよ。
男　…うん。
女　猫を飼いたいの。
男　…猫を？
女　そう、猫よ。
男　俺も猫は好きだよ、でも…
女　知ってるわ。飼えないんでしょ？

**男**　アトピーなんだよ。かゆいんだ、毛が。
**女**　いいの。知ってるわ。言ってるじゃない、夢の話よ、これは。
**男**　…あぁ。（石を見る）
**女**　…あなたが猫と一緒に生活できないことは知ってるから、私、どんなに猫を飼いたいと思っても、口には出さないようにしていたの。それが、夢に出たのね。
**男**　（石を見て）…ふふ…
**女**　夢の中であなたは、私の願いを叶えるために、プレゼントしてくれようとしたの。
**男**　…何を？
**女**　猫よ。そうだと思うわ。
**男**　…へえ、そうなんだ。
**女**　箱に入っていたのよ。ケーキやなんかのように、きちんと包装された箱をプレゼントしてくれたの。私、おや？と思ったわ。だって、夢の中のあなたは、私が猫をほしがっていることを知った上で、そのプレゼントをくれたんだもの。
**男**　…箱はあけなかったの？
**女**　怖かったのよ。その箱、本当にケーキが中に入ってるみたいに、ぴくりとも動かないの。だって、もし猫が入っているのなら、もっとごそごそ動いたり、鳴き声が聞こえたっていいはずじゃない…

と話しながら、女、傘を持って立ち上がり、
外灯の足の部分をガツンとたたく。
外灯、チカチカしなくなる。
何事もなかったかのように、再び座る。

女　…だから私、あけるのが怖かったの。もし、本当に中身が猫だったとして、ひょっとしたら窒息して死んじゃってるんじゃないかって…

男　ちょっと、ちょっと…

女　何？

男　今、何でたたいたの？

女　…え？

男　今、たたいたの、何で？

女　（気付いて）…あぁ。

男　…え？

女　え、直ったじゃない。

男　…いや、直ったけど…え？

女　…え？

男　いや…あまりにも当たり前のようにたたくからさ。

女　あぁ、直るのよ、ああいう症状は、大体、たたくと。

男　いや、そうかもしれないけれど。

女　民間療法の類いだけれど、4割方これで大丈夫なの。

男　…低くない4割？

女　調子の悪い、いろいろなものを見てきたけれどね、大体これで、一発よ。

男　そうだろうけれど、公共の、あれだぜ？

女　公共だろうと私用だろうと、直るものは直るの。

男　いや、昔の家電製品はそういうこともあったけれどさ、あれ、外灯だぜ？

女　でも、直ったじゃない。

男　いや、そういうあれじゃなくてさ。
女　じゃあ、どういうことなの？
男　いや、まあ、チカチカしなくなったけれど。
女　チカチカしてるのより、チカチカしてない方がいいじゃない。
男　…
女　私はね、たたくわよ。（ビールを飲む）
男　…あぁ。（石を見て、女を見て）ちょっと、やっぱりもう一回貸して。
女　（見て）…え？
男　その…それ。
女　…枝？
男　うん。
女　…なんで？
男　ちょっと、振りたくなったから。
女　ダメ。これは私の。
男　俺の、丸い石をまた貸すから。
女　イヤ。
男　…（立つ）
女　…何？
男　いや、もう一つくらい、ないかと思って。（探す）
女　…枝？
男　石だよ、丸い。
女　あぁ…。

女、お菓子を食べる。お菓子で何かを作る。

**男**　（探しながら）…猫じゃなかったんじゃないかなあ。

**女**　（作りながら）…え？

**男**　プレゼントだよ。

**女**　…あぁ、夢の？

**男**　…そう。猫じゃない何かだったのかもしれないよ。

**女**　…でも、夢の中のあなたは知っていたのよ、私が猫を飼いたがっていることを。

**男**　うん…じゃあ、夢の中の俺も、アトピーだったのかもしれないよ。

**女**　（男を見て）…それ、本当にアトピーなのかしら？

**男**　（女を見て）…え？

**女**　アレルギーじゃなくて？

**男**　…わからないよ、アトピーなのか、アレルギーなのか、病院で調べてもらったわけじゃあないからね。「俺、猫を抱くとかゆいんです」なんて…

**女**　ええ。

**男**　（探しながら）何でかゆいのかはわからないけれど、かゆいものはかゆいんだ。だから、猫、プレゼントしたかったけれど、できなかったんだよ。

**女**　（作りながら）…じゃあ、何をくれようとしたのかしら？

**男**　それは、猫じゃない何かを、だよ。

**女**　…

**男**　…結局、お前はプレゼントの箱はあけなかったの？

**女**　「あぁ、それはヴォルフガングさんがあけたわ。」

男　（無造作に石を拾う）…誰？
女　「どうも、ピーナッツちゃんです」（ピーナッツちゃんが完成していた）
男　え、あぁ、ピーナッツちゃん、うん…
女　わかってる、柿くんも作るわよ。
男　あ、いや、そうじゃなくて…
女　…何？
男　さっきの、プレゼントの箱をあけた…
女　…あぁ、ヴォルフガングさん？
男　そう、それ。
女　ご近所さんよ。家族ぐるみのお付き合いをしているの。
男　…その場には何人いたの？
女　3人よ、私と、あなたと、ヴォルフガングさん。
男　ヴォルフガングさんは独身なの？
女　…知らないわ、そんなの。とにかくいたのよ、ヴォルフガングさん。
男　へぇ…（石を見て）ん、おかしいな…
女　3人でパーティーをしていたの。何かのお祝い事なんだから、するでしょう、パーティー。
男　…あぁ。
女　私があまりにも不安がって、プレゼントの箱をあけないものだから、しびれを切らしたヴォルフガングさんが、箱をあけるのを買って出たのよ。
男　（石を見て）…うん。
女　…何？

男　いや、ごめん、ちょっと。
女　…どうしたの？
男　これだよ。（石を見せる）
女　…貸して。（受け取る）
男　…どう思う？
女　…微妙ね。（返す）
男　（受け取って）だろう？
女　…え？
男　いや、何でこんなもの拾ったんだろう。
女　…さあ。
男　（微妙な石をベンチに置き、その上に丸い石を置く）
女　…
男　…微妙だな。
女　…微妙ね。
女　…（木の枝で積んだ石を崩す）
男　…（身体をかく）

空がごろごろと言う。

男　…あっ、（顔をさわる）
女　…何？
男　…気のせいかな。
女　（空を見上げる）

男　そろそろ入らなきゃ、家。
女　…まだいいんじゃない？
男　…しかし、ヴォルフガングさんは失礼じゃないか？
女　…なんで？
男　だって、俺がお前にあげたプレゼントなのに、なんの権利があってそのヴォルフガングさんが箱をあけるの。
女　好奇心が旺盛なのよ。
男　失礼だよ、まったく…
女　あなた、夢の話なんだから…
男　俺は絶対、そのヴォルフガングなんてやつとは仲良くなれないよ…
女　いいのよ、ヴォルフガングさんは夢にしか出て来ないんだから。
男　現実にはいないのかい？何て言うか、その、ヴォルフガングみたいな感じの、知り合いは。
女　…いないわ、たぶん。
男　…じゃあ、まあ、いいけど。（くしゃみをし、鼻をすする）…あぁ、
女　あら、大丈夫？先に入ってて、家。
男　…ティッシュ、ない？
女　ティッシュ…あるわ。（ポケットからティッシュを出し、男にわたす。）
男　（鼻をかむ）…あれ、今、魚が腐ったみたいな匂いがしたな。
女　…え？
男　どこかで魚、腐ってるんじゃない？
女　…鼻水でしょう、それ。先に入ってなさいよ。

男　いやあ、絶対生魚なんだけどなあ。
女　…蓄膿なんじゃない、あなた。
男　ノラネコがかっぱらってきて、どこかその辺で食べてるんだよ。
女　そんなに都合よくノラネコいないわよ。
男　いや、この辺けっこういるんだよ、ノラネコ。子猫が生まれたんだ、最近。
女　…そうなの？
男　（茂みの方をうろうろしながら、「…にゃ〜ご。…んぁ〜ご。」などと言う。ときどき茂みをかきわける。）
女　ちょっと…いないわよ、そんな。
男　いないかな。…にゃ〜ご。
女　似てないわ、それ。
男　そんなことないだろ。…にゃ〜ご。…んぁ〜ご。
女　やめてよ、ちょっと…。
男　猫はね、どちらかと言うと好きなんだ。ただ、アトピーだかアレルギーのせいで、ちょっとあれなだけで…
女　わかってるけど、猫の方だってそんなに暇じゃないわ。
男　絶対生魚だったよ、さっき。
女　それはわかりました、もう。
男　（身体を半分茂みにつっこみ、顔だけ女を見て）…わかったってなんだよ。
女　え、もうわかったって言ってるんだからいいじゃない。
男　だから、わかったってなんだよ。
女　だから…あなたはさっき、したんでしょ、匂いが？

**男**　魚が腐った。

**女**　魚が腐った（同意）。だからそれがしたんだなって、さっき。いいじゃないそれで。したんでしょ？

**男**　したんだよ。したって言ってるじゃないか。

**女**　いいのよ、それはそれで。

**男**　なんだよ…お前、どうなの？

**女**　…何が？

**男**　しなかった、さっき？

**女**　…魚？

**男**　うん、腐ったみたいな。

**女**　…私は、わからなかったけれど…だから、あなたにはそう感じたんだから、それでいいじゃない。もうやめましょう。

**男**　（茂みを探しながら）…俺、蓄膿なのかな？

**女**　蓄膿よ、それ。

**男**　蓄膿って、何？

**女**　…いや、私も蓄膿に詳しいわけじゃないからあれだけど…たまるんでしょ？鼻の中に。

**男**　何が？

**女**　鼻水が。

**男**　かんだらいいだろ。

**女**　出ないのよ、かんでも。たまっちゃうの、鼻の中に。

**男**　え、いやだよ、そんなの。

**女**　それが蓄膿よ。

男　やだよ、俺、蓄膿。
女　蓄膿よ、それ。
男　…え〜、蓄膿？
女　蓄膿。
男　蓄膿か…。
女　病院に行って。
男　男性の精液ってたまにものすごく生臭い匂いがするんだけれど、あれと同じ…
女　（男をぶっ叩く）
男　…痛いよ！
女　ぶっ叩かれるよ、ほんと！
男　…え〜。
女　…なんなのよ、まったく…（ベンチに座る）
男　…

男2、来る。
ウエストポーチをしている。

男2　わたしのメガネ、知りません？
女　…え？
男2　メガネです。わたしの。
女　（男を見る）
男　…いやあ、ちょっと、
男2　…目の周囲にフレームと呼ばれる枠で囲んだレンズを設置し、鼻と、耳に引っ掛け

るツルと呼ばれるパーツで全体を固定する、視力を補正するための道具なんですが…

**男**　いや、「メガネ」という物自体がわからないわけじゃないんですよ。

**男2**　そうですか。

**男**　ええ。

**男2**　忘れたんです、メガネ、どこかで。いや、忘れたというべきか、落としたと言うべきか、ちょっと判断に困るんですが、実際ないんですよ今、わたしの手元に。

**男**　ええ、それはお困りでしょう。

**男2**　困るんです。明日はわたし、仕事でして。メガネがないと何もできないんです。ありませんでした、メガネ？

**男**　…どうかな。

男、ベンチの周囲を見る。

**男2**　いや、メガネがないと何もできないっていうのはちょっとおおげさですね。メガネがなくても、わたしはここまで歩いて来たわけですから。

**男**　ええ。

**男2**　ただ、よく見えないんです。細かい文字だとか、携帯電話のメールだとか、あと電光掲示板の表示だとか、まあ総じて文字ですが。ざっくりとしかわからないんです、今、わたし。

**男**　はあ。

**男2**　ここのベンチでね、ちょっと休憩したんです。酔い覚ましにと思って。せっかくのお休みですからね、飲んでたんですよ友人と、駅前の飲み屋で。まだ月も出ていましたし、夜風にでもちょっと、当たろうと思ったんでしょうかね？

**男**　いや、それは知りませんけれど。

**男2**　というのも、そこそこ酔ってたんですよ。何を思ってここで休憩したのかよくわからないんですが、ここで休憩したのは確かなんです。ありませんでした？メガネ。

**男**　…探そうか。

**女**　…（茂みの葉っぱをちぎる）

**男**　…

男、メガネを探す。

**男**　このベンチですか？座ったの。

**男2**　ええ、そうです、まちがいありません、そこで休憩したんです。フラフラしてましたからね、入り口の一番近くのベンチに座ったんです。

**男**　…ん～（探す）

**男2**　…フラフラっていうのは、ちょっと違うかな…フラフラって言うより、フワフワって感じだったかもしれません。気分が悪いとか、そういう酔い方じゃなくて、とても気持ちのいい酔い方でしたからね。（女に）してたんですよ、フワフワ。

**女**　はぁ…。

**男2**　まっすぐ家に帰るのがもったいないような気がしてね、へへ…

**男**　（ベンチから離れ、周囲を探す）

**女**　（葉っぱをちぎりながら）そんな、そっちの方、ないわよ。

**男**　…わからないだろう、そんなの。

**女**　（葉っぱに向かって）このベンチで落としたんですよね？

**男2**　…え、あ、いやあ、フワフワしてましたからねえ、その辺を歩き回ったかもしれま

せん。

**女**　…はぁ、

**男2**　（男に）本当にすみません、お話中の所。

**男**　いえ、全然、大丈夫ですよ、別にあれなんで。メガネを探すくらい、どうってことありませんよ。

**女**　（葉っぱをちぎる）

**男2**　…いや、でもお連れの方が…。

**男**　（女を見て）…なんで葉っぱをちぎるの？

**女**　…いいじゃない。意味なんてないわ。

**男**　…

**男2**　お取り込み中のようですね、すみませんでした、本当に。

**男**　かまいません。本当に大丈夫なんです。だって、ねえ、困るでしょう、メガネがないと。

**男2**　…えぇ、見えないんです、何かと。明日は仕事なもんで。

**男**　えぇ、えぇ、そうでしょう。わかりますよ。雨が降るまでに何とかしないと。

**男2**　そうなんです、ちょっともう、パラついてるじゃないですか。だから急ごうと思って。

**男**　急ぎましょう。雨に降られたら、見つかるものも見つからなくなってしまいますから。（探す）

**男2**　ありがとうございます。（女に）すみません、お言葉に甘えてしまって。

**女**　いえ、そんな…（葉っぱをちぎる）

**男2**　（探す）

女　…
男　（女に）ほら、お前も。
女　…入るんじゃないの？家に。
男　うん、すぐだよ。早く見つけて入ろう。だから、ね。
女　…

女も加わり、3人で探す。
茂みがガサガサする。

男　あ、ほら。
男2　ありましたか？
男　あ、すみません、ちがうんですが、（女に）ほら、
女　何？
男　いるんだよやっぱり、ノラネコが。
女　…え？
男　ガサガサしてただろ、そこ、さっき。
女　…本当に猫？
男　猫だって。んぁ～ご、にゃ～ご…（と、茂みに近づく）
女　ちょっと…人前よ。
男　関係ないよ。んぁ～ご…
女　…目がないのね。
男2　やめた方がいいですよ。
男　（身体を半分茂みにつっこみ、顔だけ男2を見て）…なんでですか？

**男2**　野暮ってもんです。
**男**　…え？
**男2**　茂みでこっそり行われることなんて、ろくなものじゃありませんよ。
**女**　え、そういうことなんですか？
**男**　え、どういうことだよ。
**女**　え、私に聞かないでよ。
**男**　…え？
**男2**　何が出るかわかったもんじゃないってことです。
**男**　（茂みから出てきて）…ヘビですか？
**男2**　ヘビかもしれませんし、猫かもしれませんし、そうじゃない何かかもしれません。
**男**　じゃあ…ラーメンですか？
**男2**　そうかもしれませんね。
**男**　ほう。
**女**　なんでラーメンなの？
**男**　え？
**女**　いや、ヘビじゃなかったら、なんでラーメンなの？
**男**　だって、何が出るかわかったもんじゃないんだぜ？
**女**　だからってラーメンってことはないでしょう。
**男**　お前にラーメンの何がわかるんだよ。
**女**　苦手なのよ、豚骨の匂いが。
**男**　大好物なんだ、俺。
**女**　だからってそんな、茂みでラーメンなんて、見たことあるの？

**男**　ないよ。なんで？
**女**　出るわけないじゃない、茂みからラーメン。
**男**　わからないだろう。（男2に）あの、ラーメンは？
**男2**　出るかもしれませんし、そうじゃないかもしれませんね。
**男**　…ほら。
**女**　…
**男2**　まあ、そこまで言うなら、私があえて見ましょうかね。（と茂みをかきわける）
**男**　あ、ずるい。
**女**　…
**男2**　…あっ、
**男**　いました？猫。
**男2**　…いえ、
**男**　なんですか？
**女**　…見ちゃいけないものですか？
**男**　…え？
**男2**　いえ…木の根元に隠れるようにしてるんですがね…
**男**　…ラーメンがですか？
**女**　…
**男2**　…あぁ、メガネがないからよくわかりません。（茂みから出てくる）
**男と女**　…
**男2**　（考えて）…カニじゃないかな。
**男**　…カニ？

女　…え？
男2　カニですな、たぶん。
男　…カニがあんな、茂みをガサガサしますか？
男2　いや、それはちょっとわかりませんが。
女　ラーメンだってガサガサしないでしょう。
男　…
女　この辺、川か何かあったかしら？
男　いや、ないけど。
男2　いるんですよ、カニは、突然。
男　でかいクモじゃありません？
男2　いや、カニですよ、たぶん、だってハサミっぽいものが。
女　（茂みをかきわける）
男　おい。
女　（見て）あ、ほんと、カニっぽい。（出てくる）
男2　ね。
女　思いがけないですね。
男　ハサミのあるでかいクモじゃない？
女　何よそれ、いないわ、そんなの。
男　いるだろ、そんなクモも。
女　そんなめずらしいクモ、こんな所にいないわ。
男2　そうですよ、それはもはやカニですよ。
男　…いやちがいますよ。

**男2**　ちがいますね。
**女**　適当なこと言わないでください。
**男**　（茂みをかきわけて）え、あれ、カニですか？
**男2**　こういう所にいるんですよ、カニが。
**男**　（茂みの中から、顔だけ男2を見て）なんでですか？
**男2**　さあ。
**男**　…
**女**　ちょっと、さわってよ。
**男**　（顔だけ女を見て）…え？
**女**　さわって。
**男**　そんな…人前だぜ？
**女**　…え？
**男**　そりゃ、お前がいいなら、あれだけど…（男2に）ねえ？
**男2**　へへへ…
**女**　え、何の話？
**男**　え？
**女**　何言ってるの？
**男**　だって、さわるんだろ？
**女**　カニよ。
**男と男2**　あぁ…
**男**　そっちか。
**男2**　勘違い、勘違い。

女　え、何と勘違いしたんですか？
男2　いえいえ、そんな。
男　こっちの話。こっちの話だよ、（男2に）ねえ？
男2　へへへ…
女　…いやらしい。
男　ふふふ…
女　結局、さわるの？さわらないの？
男　…何だっけ？
女　カニよ。
男　あぁ、カニか…（茂みの中を見る）
女　…
男　（女を見て）いや、さわらないけど。
女　何で？こわいの？
男　こわくはないよ。こわくはないけれど、カニっぽいだけで、カニじゃないかもしれないだろう。
女　カニよ、きっと。
男　だって、川とかないんだぜ、この辺。
女　あれだけカニっぽかったら、もうカニよ。
男　じゃあ、お前さわれよ。
女　イヤよ。
男　…
女　あれだけカニっぽかったら、たとえカニじゃなくてももうカニでいいじゃない。

男　カニっぽいだけでカニじゃない何かを出されても、お前、食べる気しないだろう。
男2　え、食べるんですか、それ？
男　食べません。そんなこと一言も言ってませんよ。食べるわけないじゃありませんかそんな。私の好物はラーメンですよ。何言ってるんです、まったく。
女　…意気地なし。
男　…
女　意気地なしよ、あなた。
男　…代われよ、お前。
女　イヤよ、そんなカニじゃないかもしれない何かなんて。
男　…
男2　探しましょう、メガネ。
女　そうですね。
男　…なんなんだ、まったく。（茂みから出てくる。身体をかく）

3人、探す。

男2　（歌うように）メ〜、メ〜、メ〜ガ〜ネ〜。メ〜、メ〜、メ〜ガ〜ネ〜。
男　ちょっと、変な歌歌わないでください。
男2　すいません、気が滅入るもんで。
女　…

3人、黙って探す。

3人　…

**女**　…もう、さっきの歌が頭から離れないじゃありませんか。
**男**　俺もです。気になってしょうがない。
**男2**　すいません、どうにも気が滅入って。
**男**　続き、ないんですか？
**男2**　何がですか？
**男**　歌です、さっきの。
**男2**　あ、はい、ありません。あれの繰り返しで。
**男**　…へえ。
**男2**　やりますか、一緒に？
**男**　いえ、結構です。
**女**　（探して）…あっ、
**男2**　メガネ、ありましたか？
**女**　いや、メガネじゃないんですけど…。
**男**　何？
**女**　（立ち上がり）長いホースです。（と、手には長いホース。反対側の先は見えない）
**男2**　…
**男**　え、これ、どこから伸びてるの？
**女**　相当、長いわよ。
**男2**　あの、わたしのメガネを…
**女**　わかってます。わかってるんですが、出てきたんですよ、長いホースが。
**男**　何に使うの？
**女**　そりゃあ、撒くのよ、水を。

男　まあ、そうだろうけど。
女　やるのよ、草木に、水を。
男　なんのために？
女　育てるんでしょう、きっと。
男　抜くだろう、雑草は。
女　雑草は抜くわ。雑草じゃないやつを。
男　（あたりを見て）どれ？
女　（見て）いや、ちょっとわからないけど。
男2　あ、さっき抜いてたのは雑草ですか？
女　…私がいつ、雑草なんか抜きました？
男2　ついさっきですよ、ねえ。
男　…え？
女　雑草なんか抜きませんよ、私は。葉っぱはちぎりましたけど。
男2　えへぇ、またまたぁ。
女　…
男　しかし、どこから伸びてるんだろう。
女　長いのよ、相当。
男2　（伸びてる先を見て）…暗くてよくわかりませんね。
女　ちょっとひっぱってみますか。（綱引きのようにする）
男　え、なんで？
女　ひっぱりたくならない？こう、長いと。
男　ならないよ別に。

女　え〜、そう？（ひっぱる）
男　やめときなさいって。
女　なんで？
男　なんで…なんでもだよ。
女　なるのよ、私。こう長いと、あぁ、ひっぱりたいなって。
男　うん、わかったよ、それは。でもやめとけって言ってんだ。
女　（ひっぱりながら）だから、なんで？
男　後先のこと考えずにひっぱるなって言ってんだよ。
女　なんなの？後先って。
男　だから…どうするんだよ、ひっぱって。
女　気になるじゃない、向こう側が。
男　…向こう側？
女　ホースの反対側の先よ。
男　…気にならないよ、水道だよ。
女　わからないじゃない。あっ、（と、抵抗する力がなくなり、ホースがするすると引ける）抜けたわ。
男2　…どうするんです？それ。
女　え、さあ。（どんどん引く）
男2　…
女　（引いても引いても先が見えない）無駄に長いわね。
男　もうやめとけよ。
女　そんな、もったいない。

男　もったいない？
女　いや、もったいないってことはないか。
男　…

女、先ほどのメガネの歌のフレーズを鼻歌で歌いながら、ホースを引き続ける。
先は見えない。
女、引くのをやめる。

男2　…どうしたんです？
女　…飽きましたね。
男　だからやめとけって言っただろ。
女　だって、見たいじゃない、向こう側。
男　じゃあ、引きなよ。
女　飽きたのよ、だから。仕方ないじゃない。
男　だから俺は言ったんだよ、後先を考えろって。
女　…
男2　まあまあ、もういいじゃありませんか。どうするんです？それ。
女　そうですね…

女、ベンチの背もたれに、ホースの先をひっかける。

男　え、ちゃんと戻しなよ。
女　え～。
男　だから言ったろう、後先のことを考えて…

**女**　それはもうわかったわよ…

女、ホースを持って去る。

**男**　すみません、なんだか、お恥ずかしい所を。

**男2**　いいえ、そんな。ああいう女性の方が、世間をうまく渡って行くものですよ。

**男**　…長いホースをひっぱる女ですか？

**男2**　まあ、そうとは限りませんが。

**男**　…

間

**男**　（ビールを飲む）

**男2**　おいしいざるそばのお店ってどこにありますか？

**男**　え、なんですか急に？

**男2**　ざるそばです、おいしい。

**男**　…何で私がおいしいざるそばのお店を知っていると思ったんですか？

**男2**　麺類がお好きなんですよね？

**男**　私が好きなのはラーメンなんです。

**男2**　おいしいざるそばが食べたいんですよねえ。

**男**　…そうですか。

間

**男2**　…考えてます？

男　…何をですか？
男2　おいしいざるそばのお店です。
男　いや、今、メガネの歌をずっと反芻していました。
男2　あぁ…
男　耳に残るんですよ、あれ。
男2　そうですか。

女、ホースを持って戻ってくる。

男　…どうしたの？
女　うまく戻らないのよ。
男　…
女　後先のことを考えろって言いたいんでしょう？
男　…いや、もう言わないけれど。
女　…
男2　…どうするんです、それ？
女　…とりあえず…（ベンチの背もたれにホースの先をひっかける）
男　…
女　明日、片付けに行くわ。
男　…うん。
男2　こう暗いと、見つかるものも見つかりませんからね。
男　ええ…

3人、探す。

外灯がチカチカする。

**男2**　わ、なんだか目がチカチカするな…。

**男**　あぁ、調子が悪いんですよ、あれ。

**男2**　困ったなあ、これじゃあ効率的に見つけられませんね。

**女**　まあ、たたいときゃ直るんですけどね。

女、傘で外灯の足をガツンとたたく。

外灯、チカチカしなくなる。

**男2**　…ほんとうだ。

**女**　ね。

**男2**　なんでたたいたら直るんですか？

**女**　こういうのは大体、たたいときゃ直るんです。

**男2**　詳しいですね、そっち方面の方ですか？

**男**　（男2を見て）そっち方面？

**男2**　いや、こういうのに詳しい。

**男**　土木関係ですか？

**男2**　なんで土木関係だと思ったんです？

**男**　いや、なんとなく。（探す）

**男2**　…

**女**　なんとなくなら電気関係じゃない？

**男と男2**　あぁ。
**女**　まあ、私は経理関係ですが。
**男2**　あ、全然関係ないんですね。
**女**　関係ありません。
**男2**　（男に）じゃあ、あなたが電気関係ですか？
**男**　いえ、私はどちらかと言えば印刷関係です。
**女**　主任なんです。
**男2**　へえ。
**3人**　…
**男2**　…え、じゃあ誰が電気関係なんですか？
**女**　いや、それはちょっと。
**3人**　…
**女**　ちがいます、ちがいますよ。だから経験上、4割方これで大丈夫なんです。
**男2**　…低くないですか？4割。
**男**　いや、私も最初そう思ったんですがね、先ほども直ったんです、ちゃんと。
**男2**　…はあ、あなどれませんね。
**男**　…あっ、
**男2**　ありましたか？
**男**　あ、いや、
**男2**　え、どっちなんですか？
**男**　いや、メガネじゃないんですけど…。
**男2**　もうメガネじゃないのは見つけないでください。

**女**　え、なんですか？
**男**　（立ち上がり）テレビのリモコンです。
**3人**　…
**女**　…え？
**男**　リモコンです…テレビの？
**男2**　え、ちがうんですか？
**男**　いや、わからないですけど、落ちてました。
**男2**　…やっぱりあなた、電気関係なんじゃありません？
**男**　いえ、印刷関係です。
**男2**　…
**女**　あなたの？
**男**　え？
**女**　いや、リモコン。
**男**　え、これ、うちのテレビの？
**女**　ちがうの？
**男**　ちがうだろ、これは。
**女**　そうなの？
**男**　いや、まあ似てるっちゃ似てるけど。
**女**　なくなってない？
**男**　…え、リモコン？
**女**　ええ、テレビの。
**男**　なくなってないよ。

**男2**　いざ使おうとするとない時、ありません？
**女**　リモコンですか？
**男2**　えぇ。
**女**　まあ、それはありますけど。
**男2**　そういう時、落ちてるんですよ、ここに。
**女**　そうなんですか？
**男2**　そうなんじゃないですか？
**女**　適当なこと言わないでください。
**男**　これ、うちのか？
**男2**　そうなんですか？
**男**　似てるんです、形が。
**男2**　（リモコンを見にきて）…今週の洋画劇場はマイアミバイスでしたか？
**男**　いや、それは知りませんけれど。
**女**　投げたんじゃない？
**男と男2**　え？
**女**　投げたでしょう、リモコン。
**男**　投げないだろ、リモコンは。
**男2**　なんでリモコンを投げるんですか？
**女**　むしゃくしゃしたんじゃないですか？
**男2**　むしゃくしゃしてるんですか？
**男**　いや、今は、別に、これといって。
**男2**　むしゃくしゃしたらもっと他に投げるものがあるでしょう。

**女**　なんですか？
**男2**　皿とか。
**女**　あぁ、皿ね。
**男2**　お、投げますか？
**女**　パイですか？
**男2**　え、皿ですよ。
**女**　投げませんよ皿とか。
**男2**　さっき納得したじゃな…えパイ？
**女**　はい？
**男2**　あなた、パイ投げるんですか？
**女**　投げるでしょう、パイは。
**男2**　え〜、私は皿ですけどねえ。
**女**　あぁ、皿ね。
**男2**　ガシャンとね、やっちゃうんですよ。
**男**　これ、やっぱりうちのか。
**女**　心配なら見てくればいいじゃない。
**男2**　あ、ご近所さんなんですか？
**女**　そこですよ、そこ。
**男2**　えへへぇ。
**男**　お前が言うなよ。

男、リモコンを持って去る。

**男2**　…早めに謝った方がいいですよ。

**女**　…え？

**男2**　長引くとね、なにかと後を引きますから。

**女**　何がですか？

**男2**　いや、詳細は知らないので、あれなんですが。悪いのは、向こうかもしれませんよ？それでもね、相手の顔を立てるということでも、こちらから譲歩した方が、えぇ。

**女**　あの、何の話ですか？

**男2**　旦那さんでしょう？

**女**　え…あぁ…そう見えます？

**男2**　あれ、ちがうんですか？

**女**　いや、まあ…婚姻関係を結んでいるわけではないので。

**男2**　では、性的なご関係ですか？

**女**　失礼ですよ、あなた。

**男2**　えへへぇ。

**女**　…

**男2**　（ベンチに座って）声、かけようかどうしようか迷ったんです。何やらもめてらっしゃったから。

**女**　あぁ…

**男2**　でもまあ、私もそれなりにせっぱつまっているわけで、声、かけさせてもらいました。

**女**　いえ、全然、それはもう…

**男2**　楽しいじゃありませんか、外飲み。わたしも若い頃、よくやりましたよ…（とビール

の缶を手に取る）

**女**　いや、楽しいですよ。楽しんでるんです、私たち。

**男2**　ビールかな、発泡酒かな…（とラベルを見ている）

**女**　夢の話をしていたんです。私が彼からプレゼントの箱をもらって、その中身は猫かもしれなくて、でもピクリとも動かなくて。だから私、猫が中で窒息してしまっているのかもしれないと思って、怖くてその箱をあけられなかったんです…

**男2**　よく見えないな…（とウエストポーチからメガネを取り出し、かける。あまりにも自然なので違和感がない）

**女**　…いや、中身は、猫と決まっているわけではないんですがね。そうこうしているうちに、ご近所のヴォルフガングさんが箱をあけることを買って出てくれて。パーティーの最中でして、ご近所のヴォルフガングさんも参加していたんです。結局、箱は私じゃなくて、ヴォルフガングさんにあけてもらうんです。

**男2**　（ラベルを見て）なんだ、第三のビールか、しけてんな。

**女**　そうやって夢の話をしていたのに、急に彼が、その…卑猥な話をするものだから、つい…

**男2**　（メガネをウエストポーチにしまいながら）私のビールも持って来てくれないかなあ…

**女**　…あの、聞いてます？

**男2**　ええ、ええ、誰だってそうです。私にもね、そういう苦い経験の一つや二つ、あったりしますよ、ええ。

**女**　…

**男2**　おや、これは何ですか？（お菓子で作った顔を指さす）

**女**　…あぁ、ピーナツちゃんです。

**男2**　…ピーナッちゃん？

**女**　「やあ、あたし、ピーナッちゃん。」

**男2**　おほほぉ、かわいらしい。（と食べる）

**女**　…

男、戻ってくる。
テレビのリモコンを2つ持っている。

**男**　どっちがうちのだ？

**女**　…え？

**男**　うちのテレビのリモコンはどっちだ？

**女**　知らないわ、そんなの。

**男**　色も形も同じなんだよ。

**女**　そりゃあ、同じリモコンもあるでしょう。一点ものってわけじゃないんだから。

**男**　ちょっと目をはなした隙に、これだよ。どっちかうちのだかわかりゃしない。

**男2**　試してみればいいじゃありませんか。

**女**　何をですか？

**男2**　テレビ、つくかどうか。

**女**　あぁ。

**男**　いや、試したんですよ、試したんです、実際。

**男2**　どうでした？

**男**　まずね、うちにテレビのリモコンは、あったんです、ちゃんと居間に。投げたりなんかしていませんでした。

**女**　まあ、そうよね。
**男**　お前が言ったんだろ。
**女**　投げないわよ、リモコンは、普通。
**男**　…居間にあったリモコンでつけたんです、テレビ。当然つきますよね？ついたんです、そりゃあつきますよ。だってうちのだもの。
**男2**　ええ、ええ、そりゃそうでしょう。
**男**　それで一端、消しました、テレビ。次に例の、落ちてたリモコン…（見て）どっちだ…わかんないや、とにかく、操作したんです、落ちてた方のリモコンを。ピッて。そしたらね、つくんです、テレビ。
**男2**　つきましたか。
**男**　ついたんです。えっ!?って（思って）、画面に釘付けですよ。そうしたらもうダメです。ハッと我に返った時には、どっちがうちのリモコンか、もうわからない。
**男2**　あぁ。
**男**　（女に）どっち？うちの。
**女**　知らないわ、そんなの。
**男**　困ったなあ。
**男2**　増えたんじゃないですか？
**男と女**　え？
**男2**　増えたんですよ、増殖です。
**男**　…増えないでしょ、リモコンは。
**男2**　えへぇ、そう冷静に返されると、照れますな。（と、お菓子をひょいと食べる）
**男**　え、ちょっとあなた、それ勝手に食べないでくださいよ。

**男2**　…え？

**男**　それ…そのお菓子、勝手に食べないでください。

**男2**　あぁ、すいません。そんな、悪気があったわけじゃないんです。ただ、ここにね、こう、お菓子、あったから、つい、手が、伸びるでしょう？

**男**　ええ、まあわかりますよ、わかりますけれど…。

**男2**　すみません。あなたの気分を害そうと思ったわけじゃないんですよ。ただ、ここにお菓子、あったから、手、伸びるじゃないですかぁ？

**男**　いや、何も私、食べちゃいけないって言ってるわけじゃないんです。私だってね、食べますよ、もうやめなきゃと思ってても、ついぱくぱく…

**女**　（外灯がチカチカしたのでガツンとやる。チカチカしなくなる。）

**男と男2**　…

**女**　…いや、チカチカしてたんで。

**男**　…あぁ。

**男2**　すみません、ちゃんと、弁償しますから。

**男**　え、あ、いや、いいんです。そういうことじゃなくて。食べましょう、一緒に。いいんですよ、一緒に食べた方がおいしいですから。ただね、いきなりだったから、びっくりして。ちょっと、一言言ってもらえれば、全然そんな、たいしたことじゃないんです。

**男2**　いや、物事には順序ってものがありますよ。お伺いを立てる前に食べてしまった私に非があります。

**男**　そんな、あなたのことを責めようと思って言ったわけじゃないんです。ただ、びっくりしちゃって、その、とっさに…ほら、お菓子につい手が出るみたいに、とっさに、出ちゃったんですよ、「ちょっと」って。

**男2**　え、じゃあ、いいんですか？
**男**　いいも何も…私は最初からあなたもどうですかって勧めようと思ってたくらいなんで、ええ。
**男2**　いいんですか？そうですか…じゃあ、お言葉に甘えて…（ひょいと食べる）
**男**　…
**女**　どうするの？結局、それ。（リモコンをさす）
**男**　え、あぁ…どうしよう。
**女**　いいじゃない、両方持っておけば。
**男**　両方ってお前、困るだろ、それじゃ。
**女**　なんで困るの？便利じゃない、２つあると。
**男**　２つもあったら、どっちを使おうか迷うんだよ。
**女**　くつろぐ場所に１つずつ置いておくと便利じゃない。
**男**　元の持ち主も困るだろ。
**女**　困らないわよ、捨てたんだから。
**男**　…これは捨てたのか？
**女**　落とさないでしょう、リモコンは。
**男**　わからないだろ、投げたのかもしれないし。
**女**　さっき投げたりしないって言ったばかりじゃないの。
**男**　（男2に）落としませんでした？
**男2**　え？
**男**　いや、リモコン。
**男2**　…これ、わたしの、ですか？

**男**　覚え、ありません？
**男2**　わたしが落としたのはメガネなんです。
**女**　じゃあ投げたんですか？
**男2**　…え？
**女**　リモコン、投げたんじゃありません？
**男2**　いや、それも覚えはありませんが…まあ、それなりに酔ってましたからねえ…
**女**　酔って投げたんでしょう。
**男**　まあ、酔ってたら何をするかわかったもんじゃないからなあ。
**男2**　じゃあ私は、誰のリモコンを投げたんでしょう。飲み屋のですか？
**女**　…さあ、そこまではちょっと。
**男2**　もし飲み屋のだとしたら、今、飲み屋じゃあチャンネルが変えられなくて困ってるじゃありませんか。
**男**　いかがですか？おひとつ。
**男2**　あ、いえ、さきほどから、もう…（とお菓子をひょいとやる）
**男**　あ、お菓子じゃなくて、こっち…（とリモコンを差し出す）
**男2**　あ、あぁ、あぁ、あじゃあ…（リモコンを受け取り、ウエストポーチにしまう。）
**女**　よかったわね。
**男**　あぁ。
**男2**　（腑に落ちず、もう1度リモコンを取り出し）…これ、本当にわたしのですか？
**男と女**　…
**男**　…いや、まあ知りませんけれど。
**女**　もう、投げたらどうですか？

**男と男2**　え？
**女**　いらないんでしょ？
**男**　いらなくはないだろ。
**女**　何で？
**男**　だって、リモコンだぜ？
**女**　じゃあ、あなた、持って帰ったらいいじゃない。
**男**　俺は、ほら、1個あるから…。
**女**　だからいいのよ、投げたら。
**男2**　そんな、もったいない。
**男**　もったいない？
**男2**　もったいないですよ、まったく。
**女**　そんなことありませんよ、さっきまでそこに落ちてたんですから。
**男2**　まあそうですけど、いざ拾っちゃうと、ねえ。
**女**　あとあれですよ、もう一回投げたら、飲み屋のリモコンかどうか、思い出すかもしれないじゃありませんか。
**男**　あぁ、サブリミナル効果だ。
**女**　そうよ。
**男2**　…
**女**　…いや違うわ。サブリミナル効果じゃあない。
**男**　…
**女**　…
**男2**　…デジャブ？

**男と女**　デジャブ！
**男2**　あ、よかった。
**男**　よかった。
**女**　よかったわ。
**男**　…デジャブかなあ。
**3人**　…
**男2**　…いや、待ってください、デジャブかどうかはともかく、まだこれが飲み屋のリモコンかどうか決まったわけじゃないんですよ。
**男と女**　…
**女**　もう、投げましょう。
**男2**　…
**女**　投げてみなきゃわかりませんよ。
**男2**　…
**男**　（身体をかきながら）…投げるべきです。
**男2**　…じゃあ。

男2、テレビのリモコンを投げる。
リモコン、茂みの中へ飛んで行く。

**3人**　…
**女**　…どうです？
**男2**　どう、と言いますと？
**女**　なんか、こう…デジャブしました？

**男2**　…いえ、特に、これといって。
**女**　あぁ…
**3人**　…
**男**　…拾いますか。（と茂みを探す）
**女**　もう、いいんじゃない？
**男**　まあ、一応。
**男2**　…あれは本当に、飲み屋のリモコンなんですかね？
**女**　…さあ。
**男**　（出てきて）…ないですね。
**3人**　…

空がごろごろと言う。
3人、見上げる。

**男2**　これは、本格的になってきたんじゃないですか？（と、女の傘をさす）
**女**　…え？
**男2**　けっこう降るみたいですよ。出がけに天気予報を見たら、70パーセントでしたから。
**女**　あの、それ、私のですよ。
**男2**　あ、はい。
**女**　いや、それ、私のなんですけど。
**男2**　え、あぁ、さしますか？
**女**　いや、今は使ってませんが、置いてるんです、そこに。
**男2**　何のために？

**女**　そりゃあ、使うために。
**男2**　あ、あぁあぁ、すいません、外灯をたたく時に使うんでしたね。（傘をたたむ）
**女**　いや、ちがいます、確かに外灯をやる時にも使ってますけど…
**男2**　（傘で外灯をガツンとやる）
**女**　…え、今チカチカしてませんよ。
**男2**　いや、まあ、やってみたいじゃないですか。
**女**　チカチカしてないのにやらないでください。
**男2**　好奇心ですよ好奇心、へへ…。
**女**　とにかく、さす時のために置いてるんです。
**男2**　でも、これはもう、降ってますよ、雨。
**女**　まあ…
**男2**　ささないんですか？
**女**　その…あれですよ。傘、さすほどの雨かって言われたら、まだそこまで、あれじゃないですか？
**男2**　え、けっこう、びしょびしょですよ？
**女**　びしょびしょって思うか思わないかっていうのは、その、人それぞれじゃありませんか。
**男2**　はあ、まあ。
**女**　だから、まだ私は、えぇ。
**男2**　（男に）降ってますよね、雨？
**男**　…まあ、降ってるか降ってないかと言われたら、降ってますが、彼女、まだ大丈夫らしいので。

**女**　そう、大丈夫なんです、まだ。序の口ですよ、これくらい。

**男2**　（男に）あなたは？

**男**　いや、まあ、私はどちらかというと、降ってるか降ってないかと言われたら、降ってると思うのですが…

**女**　いいわよ、させば。

**男**　…いやあ、

**女**　貸すわよ。

**男2**　どうぞ（傘をさし出す）

**女**　あなたが言わないでください。

**男2**　あぁ。（傘を女にわたす）

**女**　どうぞ。（男に傘をさし出す）

**男**　あぁ…

**女**　さしたいんでしょ？いいじゃない、させば。

**男**　うん…いや、いいよ、まだ。

**女**　なんで？さしたいんじゃないの？

**男**　うん…まあ、まだ、大丈夫だろう。

**女**　いいの？

**男**　…いいよ。

**女**　いいんです、我々、まだ。（傘を男2にわたす）

**男2**　はあ…、じゃあ、これ、置いておきますね。（傘を置く）

**女**　はい、すみません。

**男2**　（ウエストポーチから折りたたみ傘を取り出し、さす）

男　…あ、持ってたんですね。
男2　えぇ、まあ、はい、自分のは。
女　…
男2　あぁ、お菓子もこんなに…（と言いながら食べる）
男　…

空がごろごろと言う。

男2　じゃあもう、…本気で探しますか。
男　…本気じゃなかったんですか？
男2　…え？
男　今まで、本気じゃなかったんですか？
男2　あぁ、いや、私、こう見えても測量関係でして。
男　…お仕事ですか？
男2　えぇ、測量関係なんです。だから、きっちり測ったりなんかすれば、失せ物も割と見つかるんですよ。
女　じゃあ、最初から…
男2　けっこう、疲れるんでね。
女　…
男2　測りましょうか。早くしないと、雨もあれですし。
男　…そうですね。
男2　じゃあ、まず、ベンチに座ってもらえますか？
男　あ、我々もですか？

**男2**　ええ、3人いますからね、きちっと測らないと。

**男**　はあ…

3人、座る。

**男2**　ちょっと、傘と、この枝と石、お借りしますね。

**男**　ええ。

男2、足下に女の傘を置く。

**男2**　傘の前に立って、並んでください。

男2を先頭に、男と女、並ぶ。

**男2**　ついて来て。

3人、男2を先頭に歩く。

止まる。

**男2**　この辺りかな…（足元に微妙な石を置く）

**男**　あの、我々はどうすれば…

**男2**　あぁ、黙って従ってください。プロのあれなんで。

**男**　…

男2、ベンチから微妙な石に向かって、

木の枝でガリガリと線を引く。

木の枝、折れる。

**男2**　あ、折れちゃった。（ポイと捨てる）

**女**　…

画家のように手で何かを測り、
自分の傘を、茂みの方向に向かってバタンと倒す。
その方向に狙いを定める。

**男2**　ヨォーケェィ（かけ声。狙いを定める）

**男と女**　…

**男2**　ヤッ（かけ声。丸い石を投げる）

**男**　あぁっ。

**男2**　ゲッセッ（かけ声。茂みに駆け寄り、ガサガサと探す）

**男と女**　…

**男2**　ありましたぁ！（と、手にはリモコンを持っている）どうです、たいしたもんでしょう！

**男と女**　…

**女**　…あなた、メガネを探してるんじゃなかったんですか？

**男2**　え…あぁっ！

**男と女**　…

**男**　…あの、私の丸い石は。

**男2**　あっ、えっと…（茂みを探す）

**男**　…

**男2**　（出てきて）…すみません、どこかに行ってしまいました。
**男**　…
**男2**　お詫びに…（と、リモコンをわたす）
**男**　あぁ、どうも…（受け取る。再びリモコンが2つになり、茫然とする）
**3人**　…
**女**　…もう一度、やりますか？
**男2**　いえ、これ、けっこう疲れるんで、もう。
**女**　…
**男2**　休憩しましょうか。（ベンチに座る。）
**女**　え、でも雨が…
**男2**　いや、まあ、そうですが、とりあえず、ね。
**男と女**　…（なんとなく、その場に立ち尽くす）
**男2**　（傘をさす）
**男と女**　…

間

**男2**　…何か、お話でもしますか。
**女**　…はぁ。
**男**　お前、あの話がいいんじゃない？
**女**　あの話？
**男**　ほら、夢の。
**女**　あぁ、さっき、あなたが家のリモコンを見に行ってる間に、少し、お話したのよ。

**男**　あぁ、そうでしたか。
**男2**　えぇ。動物が箱から脱出するイリュージョンですよね。
**女**　え？
**男**　あ、そういう夢だったの？
**女**　ちがうわ。あなた、聞いてたじゃない。
**男**　聞いてたよ。聞いてたけど、俺はまだ、最後まで聞いていないから。
**女**　この方にも最後まで話してないわ。（男2に）あなた、私がいつ、イリュージョンの話なんかしました？
**男2**　ゴールデンハムスターが箱の中に閉じ込められるんじゃありませんでしたっけ？
**女**　猫ですよ。箱の中身は猫なんです。
**男**　あ、猫だったんだ。よかったじゃないか。
**女**　ちがうの、猫じゃなくて。
**男2**　ゴールデンハムスターですか？
**女**　そのゴールデンハムスターはどこから出てきたんですか。
**男2**　箱の中じゃないんですか？
**女**　そういうことじゃないんです。

空がごろごろと言う。

**男2**　…どういうことなんです？
**女**　そもそもイリュージョンが間違ってるんですよ。
**男**　そうですよ、クリスマスの話です。
**女**　クリスマスじゃないわ。

**男2**　クリスマスじゃないそうですよ。
**男**　あれ、おかしいな…
**女**　あなた、全然聞いてないわね。
**男**　俺的にはクリスマスだったんだけどな。
**女**　クリスマスだなんて一言も言ってないじゃない。
**男**　季節は冬で合ってるよな？
**女**　知らないわ、そんなの。
**男**　（男2に）みんなでお鍋を囲んでいたんです。
**男2**　そいつはいい。
**女**　囲んでないわ。パーティーよ。
**男**　だから鍋パーティーだろ？
**女**　若鶏を焼いたりしていたの。
**男**　…クリスマスだから？
**女**　ちょっと、一回クリスマスから離れて。
**男2**　お正月あたりでいいですか？
**女**　季節のイベントからも離れてください。
**男2**　（男に）これは、冬じゃないんじゃありません？
**男**　…冬じゃないのか？
**女**　…冬じゃないわ。知らないけど。
**男**　…知らないけど？
**女**　そんなのよく覚えていないけれど、もう冬じゃないことにしたわ。
**男**　なんで？

**女**　あなたが全然聞いていないからよ。
**男**　…
**男2**　ゴールデンハムスターはゲペルニッチさんが閉じ込めたんですよね？
**女**　…それはもう私の夢じゃありませんね。
**男**　あ、でもなんか、気に食わない奴がいたじゃないか。変な名前の。
**女**　ヴォルフガングさんでしょ？
**男**　そいつ、ヴォルフガングだ。
**男2**　誰ですか？
**男**　ご近所さんです。
**男2**　（家の方を見て）お隣さんですか？
**男**　いえ、実際にはいないんです、夢の中だけ。
**男2**　あぁ。
**女**　（外灯がチカチカしたのでガツンとやる。チカチカしなくなる。）
**男**　勝手に箱をあけるような奴なんですよ。
**男2**　その方がイリュージョンをするんですね。
**女**　だからイリュージョンは誰もやらないんです。
**男2**　（女に）じゃあヴォルフガングさんは何をするんですか？
**女**　知りませんよ、そんなの。
**男2**　（男に）外人ですよねえ。
**男**　外人でしょう、それは。
**男2**　あ、お酒でありますよね、確か。
**男**　ヴォルフガングって名前ですか？

**男2**　えぇ、確かロシアの方の。
**男**　洒落た名前ですね。ウォッカか何かですか？
**男2**　バーボンでしょう、どちらかと言うと。
**女**　どちらかと言うと？
**男2**　だって、ヴォルフガングですよ？（言い方）
**女**　あぁ…
**男**　あぁ？
**女**　いや、バーボン、しっくり来るなって。
**男**　…それを言うなら俳優にもいただろ。
**男2と女**　え？
**男**　ヴォルフガング。
**男2**　いましたっけ？そんなの。
**男**　いましたよ、なんだか猟奇的な。
**男2**　えへ〜、こわいなそれ。
**女**　待って、別にそれはヴォルフガングさんが猟奇的なわけじゃなくて、そういう役柄の演技をしたっていうことでしょう？
**男2**　あぁ、そうか。
**男**　でも、猟奇的な役ばかりやってるってことは、そういう資質を持ち合わせてるってことじゃない？
**男2**　え、そうなんですか？
**男**　や、会ったことないからわかりませんけど。
**女**　ヴォルフに失礼よ。

男2　ヴォルフって呼ばれてるんですか？
女　知りませんけど、愛称ですよ。
男　なんでお前はヴォルフガングの肩を持つんだい？
女　いいじゃない、親しい間柄の友人がいたって。
男　…
男2　でもチャップリンのことをチャップって呼ぶ人、いませんよね？
女　あら、私、ベートーベンのことは親しみを込めてベンって呼びますのよ。
男2　おほぅ、そうですか。
男　それを言うならベートーだろう。
女　…え？
男　いや、ヴォルフやチャップみたいに呼ぶなら、ベートーだろう。
女　何よそれ、語呂が悪いじゃない。
男　ピーターみたいでいいじゃないか。
女　誰よ、それ。
男　誰ってことはないけど、いるだろ、ピーター。
男2　まあまあ、いるってことでいいじゃありませんか。
女　ピーターですか？
男2　ヴォルフガングをヴォルフって呼ぶ人です。
女　あぁ。
男　まあいるんじゃないですか、どこかに。
女　どこか？
男2　そりゃあ、どこかにはいるでしょうけれど。

**男**　親とか。
**男2**　あぁ、まあ親とか。
**女**　…芸名だったら？
**男と男2**　え？
**女**　芸名だったら親は本名で呼ぶでしょう？
**男**　そりゃそうだろうけど。
**男2**　じゃあ誰がヴォルフって呼ぶんですか！
**女**　え、そんな急に怒らないでくださいよ。
**男2**　あぁすみません。つい興奮してしまって…。
**女**　いや、わかってくれればいいんですけど。
**男2**　…何の話でしたっけ？
**男**　…バーボンでしょう。
**男2**　イリュージョンじゃありません？
**女**　私の夢よ。
**男**　あ、お前の夢だ。
**男2**　将来的にどうなさるおつもりなんですか？
**女**　そっちじゃなくて、寝てる時に見る方です。
**男2**　まあ、わかってて言ってるんですがね。
**女**　失礼ですよ、あなた。

外灯がチカチカする。

**女**　私は見たくない見たくないと思っていたけれど、ヴォルフガングさんがプレゼントの

箱をあけたんです。

**男2**　箱って言うのは、中に物を入れるのに適した、移動や保管をする際に重宝する、主に四角形のもののことですね？

**女**　そうですよ！箱があいたから、つい、見てしまったんです。

**男**　お菓子をつい、つまむように。

**女**　どのようにでもいいじゃない。

**男2**　…目がチカチカするな…

**女**　だから調子が悪いんです、あの外灯。

**男**　中には何が入っていたの？

**女**　だから何も入っていなかったの！

**男**　いや、それは初耳だよ。

**女**　え…あ、そうか。…何も入っていなかったのよ。

**男**　へえ。

**女**　からっぽだったの。

**男2**　脱出が成功したということですか？

**女**　ちがいます。

**男**　それで、お前はどうしたの？

**女**　どうもこうもないわ。それでおしまい。目が覚めたの。

**男**　…ヴォルフガングさんは？

**女**　帰ったんじゃない。知らないけど。

**男**　…

**男2**　パーティーの後片付けは誰がしたんですか？

**男**　それ、そんなに気になります？

**男2**　苦手なんですよ！片付けが、どうにも！

**男**　急に怒らないでくださいよ。

**男2**　あぁ、つい…

**男**　いやわかってくれればいいんですけど。

**女**　あぁもう…うっとうしいな！

女、傘で外灯をたたく。

直らない。

**女**　…あれ？

ガンガンたたく。

**男**　おい、あんまりガンガンたたくなよ。

**女**　いや、昔のテレビやなんかと一緒で、経験上、たたいときゃ直るのよ、ほんとに。

**男**　わかったよ、でもほどほどに…

**男2**　お手伝いしましょう。（傘をたたむ）

**男**　…

男2、女と一緒に外灯をガンガンやる。

外灯、消える。

**全員**　あっ。

次の瞬間、外灯が異常な明るさで点く。まぶしい。
空がごろごろと言う。
茂みがガサガサする。
カニっぽい何かがラーメンを持って横切る。
長いホースの先からは緑色のドロドロした液体が流れる。

**女**　わっ。
**男**　まぶしっ。
**男2**　まぶしいよ、これ。
**女**　ちょっと、どうにかしてよ。
**男2**　私にそんなこと言われても…
**女**　いや、あなたに言ったんじゃありません。
**男2**　あぁ、こりゃどうも。
**男**　お前がガンガンたたくからだろ。
**女**　たたいときゃ直るって言ったじゃない。
**男**　お前が言ったんだよ。
**男2**　結局パーティーの後片付けは誰がしたんですか？（手探りで歩き、女の身体をさわる）
**男**　今それどころじゃないでしょう。
**女**　ちょっと…変な所さわらないでよあなた。その気になるわよ。
**男**　誤解を招くようなことを言うな！なんとかする方法を考えろ！
**女**　あぁ…目ぇあけてられない。
**男2**　（緑色のドロドロしたものに触れ）わっ、なんだかドロドロする！なんだこれ。

**男**　こんにゃろ、こんにゃろ（持っていたリモコンを2つとも投げる）
**女**　あなた、今、何か投げたでしょう。
**男**　リモコンだよ！（身体をかく）
**女**　なんでリモコンを投げるのよ。
**男**　むしゃくしゃしたんだよ！（身体をかく）
**男2**　私のメガネ、知りません？
**女**　いらないでしょ、今、メガネ！

外灯が消える。

**3人**　あっ…

静けさが訪れる。
今度はバケツをひっくり返したように雨が降る。

**3人**　…
**男**　どうするんだよ、こわれちゃったじゃないか。
**女**　大丈夫、大丈夫よ。もうちょっと、あれすれば…（引き続きガンガンやる）
**男**　もうやめとけって。
**女**　いや、こういうのはね、経験上、あれよ、直るまでやらないと…
**男**　…
**男2**　なんなんだ、これ…（ウエストポーチからメガネを出し、かける）なんだか緑のドロドロしたものですね。
**男**　…なんですか、それ？

**男2**　わからないんですよ。ドロドロした何かです。
**男**　…へえ。
**男2**　ホースから出たみたいで。
**男**　…あれ、あなた、メガネかけてるじゃありませんか。
**男2**　…え？あ、ほんとだ。いつからですか？
**男**　いや、知りませんけれど…
**男2**　これ、私のですか？
**男**　あなたのでしょう。
**男2**　ですよね。
**男**　…
**女**　（傘を投げ捨て、素手で叩いたり、蹴ったりする。）
**男2**　ずっとかけてました？私。
**男**　いや、どうでしょう。かけてなかったんじゃないですか。
**男2**　まあ、お互い、飲んでますからね。その辺は。
**男**　はぁ…。
**男2**　じゃあ、わたしは一体、何を探しに来たんだ…

男2、女の傘をさして去る。
雨がザーザー降る。

**男**　…もういいよ。
**女**　いや、もうちょっと…もう、すぐにあれだから…（ひっぱっている）
**男**　…

女　あっ（外灯をひっこ抜く）…。
男　…だから、言ったじゃない…
女　どうしよう、これ…（外灯を持ったまま立ち尽くす）
男　どうって…知らないよ。
女　とりあえず戻そうかな…あれ、うまく刺さらないな…（元に戻そうとするが、うまくいかない）
男　だからやめとけって言ったんだよ。
女　…おかしいわ、経験上、あれでうまく行くんだけれど…あれ、うまくいかないな…

雨がザーザー降る。
女、外灯を元に戻そうとするが、うまくいかない。

男　…入ろう、家に。雨がすごいよ。
女　まだ、これくらい、どうってことないわ。
男　…明日にしよう。長いホースも片付けなきゃいけないし。
女　目が覚めて、私、思ったのよ。
男　…え？
女　中身のわからないプレゼントは、箱をあけないまま持っておこうって。
男　…あけたくなるだろう。
女　あけたい気持ちを楽しむのよ。
男　…猫が窒息しちゃうよ。
女　…わからないじゃない、そんなの。
男　…あれ、なんだか、今、デジャブしたな…

**女**　え？

**男**　…わからない、ちがうかも。

**女**　…

**男**　…先に入ってるよ。雨が降るとかゆいんだ。

男、去る。

女、雨に打たれる。

**女**　（空を見上げ）…あぁ…このまま…雨にまぎれて放尿してやろうかしら…

雨がザーザー降る。

**女**　…あはは、あははは、あはははは…

雨がザーザー降る。

暗くなる。

終わり。

優秀賞

# 乗組員

作・島田佳代

**登場人物**

イトヨ（35）……タクシードライバー。
ナミコ（31）……イトヨの妻。
アカザ（28）……ナミコの妹でイトヨの義妹。
スズキ（45）……極楽食堂の奥さん。
サバオ（23）……スズキの甥。
カネヒラ（55）…自治会長。

九州の架空の島、イトヨが暮らす一軒家。
その茶の間。座卓がある。
舞台奥には台所と玄関。
上手袖は隣の部屋。客席からは見えない。
下手側は縁側である。

## 【0】

半年前、初夏。
夕方。

海は凪いでいる。
風のない夕暮れ。
かすかに雨の匂いがするような。

軒先に風鈴。縁側には籠が置いてある。
台所でナミコが夕飯の支度をしているようだ。ナミコ、うたを歌っている。
玄関が開き、イトヨが帰ってくる。

**イトヨ**　ただいま。
**ナミコの声**　おかえりなさい。

**イトヨ**　雨になるぞ。蛙が鳴いとる。

イトヨ、隣の部屋へ。リンの音。
またナミコの鼻歌が聞こえてくる。
イトヨ、戻ってくる。
まだ雨は降らない。蒸し暑い空気が体にまとわりつく。

**イトヨ**　昼間、波止場ん近くに子ども連れがおってさ。
**ナミコの声**　どんな？
**イトヨ**　ばあちゃんと孫やね、あれは。こまんか男ん子で。幼稚園くらいかな。
**ナミコの声**　そうね。
**イトヨ**　孫が遊びにきたんじゃなかろか。
**ナミコの声**　海にきたんじゃろか。久しぶりに晴れたから。
**イトヨ**　帰りたくなかったんじゃろね。まだ遊びたいってごねて、機嫌が悪い悪い。
**ナミコの声**　泣いとった？
**イトヨ**　息継ぎが心配になるくらい泣いとった。

と、ナミコ、麦茶のグラスを持ってやってくる。
静かな横顔。

**ナミコ**　はい。

と、イトヨにグラスを渡す。

**イトヨ**　ありがと。

**ナミコ**　もじょかったでしょ？
**イトヨ**　あずきクッキーやったら、涙目んまま食べたが。
**ナミコ**　持って行っとったの？
**イトヨ**　美味しかもんな、ナミコんクッキーは。
**ナミコ**　フェリーで来たんやろか。
**イトヨ**　ん？
**ナミコ**　その子。
**イトヨ**　じゃろ。
**ナミコ**　雨が降ってきた、て思わんかったかな。ほら、甲板出たら、こまんか波しぶきが顔に当たるでしょ。背がちっちゃいと、なおさら・・・。
**イトヨ**　そうな・・・。
**ナミコ**　・・・チロ、帰ってこんね。
**イトヨ**　ああ、玄関先に寝転んどったが。
**ナミコ**　そう。チロも雨ん匂いがすっとかな。・・・また降るんやろね。
**イトヨ**　梅雨だからな。
**ナミコ**　また、夏がくるね。
**イトヨ**　・・・。

ナミコ、夕暮れの庭を見つめている。そこに何かを見ているようでもある。

**イトヨ**　ナミコ。
**ナミコ**　ん？
**イトヨ**　梅雨明けたらどっか行こか。

**ナミコ**　どっか？
**イトヨ**　フェリーに乗ってさ。
**ナミコ**　ふふふ、帽子。
**イトヨ**　帽子？
**ナミコ**　もう飛ばされんごとせんとね。帽子が飛んで、わんわん泣いて・・・。
**イトヨ**　・・・あご紐でん、つけとけ。

ナミコ、笑う。そして、イトヨの顔を見つめる。

**ナミコ**　ソータさん・・・。
**イトヨ**　何ね？
**ナミコ**　フェリー下りた時、こげな日ってあるんだな、て思った。
**イトヨ**　何が。
**ナミコ**　海に陽が反射して、どこまでも凪いどって。わたし、幸せだなぁ、て思ったんよ。
**イトヨ**　・・・何を言うとか。

ナミコ、イトヨを見ている。

**イトヨ**　何ね・・・。
**ナミコ**　なんでんなか。

ナミコ、立ち上がって台所へ。

**イトヨ**　・・・。

イトヨ、麦茶を飲み干す。立ち上がり、グラスを持って台所へ。

**イトヨ**　おい、ナミコ。

暗転

## 【1】

初冬。
座卓の上は片付いていて、なにもない。
座布団に座ったスズキがくしゃみをする。
隣の部屋からリンの音。

**スズキ**　・・・。

スズキ、部屋を見渡す。と、縁側に置いてある籠とそこに敷いてある古ぼけた毛布が目に入る。
スズキ、部屋の匂いを嗅いで、

**スズキ**　猫・・・

スズキ、またくしゃみ。
と、イトヨがお茶を持ってくる。

**スズキ**　すみませんね、うちん店で話できればよかったんじゃけど、主人が・・・

**イトヨ**　いえ・・・足、崩してください。
**スズキ**　どうぞおかまいなく。正座ん方が落ち着くんですが、寒かですし。
**イトヨ**　今度ん休みん日にこたつやらストーブやら出そうと思っとって。
**スズキ**　いえ、そげなつもりの発言じゃなかです、今のは。
**イトヨ**　冬支度もしきらんで。
**スズキ**　一般論です。ここがどうこうちことじゃなくて。
**イトヨ**　実際寒々しいですから、ここ。
**スズキ**　正座すると脚があったかいんですよ。どうですか、正座。

スズキ、イトヨに正座を勧める。
イトヨ、正座してみる。

**イトヨ**　はぁ。
**スズキ**　お尻のぬくもりが脚を包むっちゅうか。
**イトヨ**　なんとなく。
**スズキ**　じゃから一般論です。
**イトヨ**　はぁ。
**スズキ**　・・・あ、猫。
**イトヨ**　いましたっ？
**スズキ**　え、
**イトヨ**　うちん猫っ！
**スズキ**　いえ、見てないですけど、毛布が。
**イトヨ**　あ、

**スズキ**　猫ん毛布かな、飼ちょいやっとかな、て思て。
**イトヨ**　あ、はい・・・。
**スズキ**　やっぱり。うちもね、子どもん頃ばあちゃんが白か猫拾ってきて、段ボールにあげな毛布敷いて可愛がっとりましたが。チビて名前つけてね。子猫じゃからチビ。
**イトヨ**　だいぶ冷え出したもんで、夜は家ん中に。
**スズキ**　猫、もじょかですもんね。
**イトヨ**　飼わんごとしとったんですけど。
**スズキ**　お家の関係？
**イトヨ**　え、
**スズキ**　ペット禁止とか。
**イトヨ**　ああ、ここはそういうのはないんですけど。一軒家ですし。
**スズキ**　まあ、生き物飼うちゅうのは世話の問題もありますしね。
**イトヨ**　必ず別れがくるでしょう。どうしてもそれが、ね・・・。
**スズキ**　ああ。
**イトヨ**　できるだけ、そういうことは・・・。
**スズキ**　ええ。
**イトヨ**　飼わんごとしとったんですけど、妻がどうしても、て。
**スズキ**　そうですか。
**イトヨ**　チロちゅうて、三毛猫で。
**スズキ**　今、どこに？
**イトヨ**　チロですか？
**スズキ**　ええ。

**イトヨ**　おとといから姿が見えんのですが。
**スズキ**　あ、だからさっき（大声出したんですね）。
**イトヨ**　はい・・・。
**スズキ**　びっくりしましたが。ホラ、ね、イトヨさん語り口が、ソフト？ね、穏やかじゃから。
**イトヨ**　ですかね・・・。
**スズキ**　旅行でも行っとるんじゃなかやろか。
**イトヨ**　旅行？
**スズキ**　チロちゃん。
**イトヨ**　だとよかですけど。
**スズキ**　そんうち帰ってきますが。
**イトヨ**　そうでしょうか。
**スズキ**　・・・。
**イトヨ**　・・・。
**スズキ**　猫、もじょかですもんね・・・。

と言いながら、スズキ、くしゃみと鼻水。

**イトヨ**　寒かですよね、やっぱり。ストーブ出しましょか。

イトヨ、立ち上がる。

**スズキ**　違うんです。寒いのとは別物で。
**イトヨ**　え、

**スズキ**　猫アレルギーで、もじょかですけど、アレルギーで。
**イトヨ**　すみません、掃除しとるんですけど、
**スズキ**　よかのよかの。掃除じゃどげんもならんもんもありますよ。うちもですし。猫かとんこつかの違いですが。
**イトヨ**　なんか、ここ、アレですね、寒かったり猫だったり、すんませんほんと、
**スズキ**　よかのよかの、言うても大したことはなかですから。
**イトヨ**　えーと、外、出ましょうか？
**スズキ**　いえいえ、気にせんでください。じきにとまります。
**イトヨ**　けど、
**スズキ**　本人はおらんですし。
**イトヨ**　本人？
**スズキ**　チロちゃん。
**イトヨ**　ああ。
**スズキ**　いや、もうね、家族ん一員でしょうが。ひとも猫も同じ。
**イトヨ**　はあ・・・。

スズキ、くしゃみを気合いで止めている。

**イトヨ**　とまりました・・・？
**スズキ**　たいていのことは気合いでどげんかなるもんですが。

## 【2】

と、自治会の無線放送が流れる。

ピンポンパンポーン。

**カネヒラの声**　ウロコ自治会より連絡です。昨日深夜、波止場に着いたとみられる小舟の乗組員は依然として見つかっておりません。暗くなる前にしっかり戸締りをお願いします。

イトヨとスズキ、放送を神妙な顔で聞く。

**スズキ**　・・・、なにもこげん犯罪者みたいな扱いせんでも、ねぇ。

**イトヨ**　・・・スズキさん、

**スズキ**　はい。

**イトヨ**　どっちがどうとか、もう、そげなことでもなかと思うんです。

**スズキ**　ええ、ええ。

**イトヨ**　ええ。

**スズキ**　ですよね・・・。

**イトヨ**　はい・・・。

**スズキ**　・・・あん舟漕いできたんは、あん子ですが・・・。

**イトヨ**　・・・妻は、あなたの甥っ子さんと一緒におったってことですよね・・・

**スズキ**　昨夜ん夜中に、帰ってきました・・・。イトヨナミコさんちゅう、タクシー運転

手の奥さんと今まで一緒だったて、言うとりました。タクシーちゅうたら、ねえ、島ん中じゃ少なかですから、すぐにお宅てわかって、電話を・・・。

**イトヨ**　本土から小舟に乗って・・・

**スズキ**　そう言っとりました。あげな、お守り舟みたいな小舟で・・・。

**イトヨ**　お守り舟？

**スズキ**　小学校ん裏山ん祠に、お地蔵さん乗せたみどり色ん舟があっとですよ。こんくらいの（と手振り。小さい）

**イトヨ**　ああ、

**スズキ**　見たことあいやっですか？

**イトヨ**　ええ、入学式んときに一度・・・

**スズキ**　入学式？

**イトヨ**　見たことあります。息子と一緒に。

**スズキ**　息子さんと。

**イトヨ**　お地蔵さんは海に落ちたら沈んじゃうのに、て心配しとりました。

**スズキ**　今、どっか遊びにでも？

**イトヨ**　え、

**スズキ**　息子さん。

**イトヨ**　・・・いえ、もう・・・、

**スズキ**　え・・、

スズキ、リンの音を思い出す。

**スズキ**　あ・・・、すい、ません・・・。

**イトヨ**　ああ、いえ・・・。
**スズキ**　・・・あん祠ん舟は、お守り舟、て言われとるんですよ。
**イトヨ**　お守り舟・・・
**スズキ**　地蔵菩薩がお守り舟に乗ってやってきて、救ってくれる、て・・・。
**イトヨ**　・・・。
**スズキ**　昨夜、裏の窓んところにあん子が立っとりました。コンコンって、ガラス叩く音がして、カーテンの陰から覗いたら、あん子がいて。
**イトヨ**　ナミコはおらんかったんですか？
**スズキ**　ひとりでしたが・・・。
**イトヨ**　ナミコん行方は、
**スズキ**　言うとりませんでした。ただ・・・
**イトヨ**　ただ？
**スズキ**　二人とも帰りたくなった、て・・・。
**イトヨ**　帰りたくなった・・・。
**スズキ**　それだけ言うて、どっか行ってしもうて。帰りたくなったんなら、おればよかのに、またどっかへ・・・。
**イトヨ**　・・・。
**スズキ**　・・・主人がおるからかもしれません・・・あん子、店も嫌ってましたから・・・。
**イトヨ**　・・・夏になる前でした。
**スズキ**　・・・。
**イトヨ**　そろそろ夏ん支度をせんと、て二人で言うとって。梅雨ん前に温かかった時期あるでしょ。昼間三十度超える日が続いて。

**スズキ**　ああ。

**イトヨ**　ナミコが風鈴買ってきたんですよ。スーパーに出とった、て言うて、早かね、て笑って。

イトヨ、縁側のガラス戸の向こう、軒先に吊るした風鈴を見る。

**イトヨ**　半年経ちます。

**スズキ**　ですね・・・。

イトヨ、少し笑う。

**イトヨ**　ですよね、お宅ん甥っ子さんと一緒におらんごとなったんじゃから、同じですね、半年・・・。

**スズキ**　・・・どうしようもなか子で・・・。

**イトヨ**　・・・スズキさん、携帯持っとられますか？

**スズキ**　ええ、

**イトヨ**　店だとご主人もおいやいし、自分も昼間は家におらんこと多かですから、なんか連絡あったらお互い、ね。

イトヨ、携帯電話を持ってくる。

**スズキ**　ああ、そうですね。

スズキ、手提げから携帯電話を出そうとする。探している様子。

**イトヨ**　赤外線いけますか。

**スズキ**　（携帯電話が見つからず）アレ？アレ？

**イトヨ**　ありますか？

**スズキ**　うちに置いてきたみたいで・・・。

**イトヨ**　そしたら、今かけましょうか、これ最後が86ですから。着信「ハロー」のやつを登録してもらえれば。番号教えてもらえますか？

**スズキ**　えーと、０９０、０９０・・・７・・・０９０、・・・んー

**イトヨ**　ああ、よかですよ。

**スズキ**　自分の番号も覚えとらんで、もう。

イトヨ、メモに自分の番号を書いて渡す。

**イトヨ**　こん番号に、後でかけてもらえれば。

**スズキ**　そうします。

スズキ、立ち上がる。

**イトヨ**　すみません、休憩中にわざわざ。

**スズキ**　とんでもなか。近かですし、電話したのはこっちですから。

**イトヨ**　仕込みん途中でしょう。

**スズキ**　うちはそげん忙しくもなかし。何食べてもとんこつラーメンの味がする、ち言われて。フフ・・・。

**イトヨ**　・・・じゃあ、あとで電話を。

**スズキ**　「ハロー」にですね。

スズキ、くしゃみをして、チロの毛布を見る。

**スズキ**　帰ってきますが・・・。

**イトヨ**　・・・。

**スズキ**　そしたら（これで）・・・、

**イトヨ**　どうも・・・。

スズキ、玄関へ。イトヨも後に続く。誰もいなくなる。

玄関が開いて、閉まる。

## 【3】

イトヨ、一旦茶の間に戻り、スズキのお茶を持って台所へ。

イトヨ、自分の湯のみを持って戻ってくる。

外を見る。

**イトヨ**　チロ。

と猫の名を呼んでみるが、返事はない。イトヨ、縁側へ行き、ガラス戸を開ける。

**イトヨ**　チロ。出てこんか。鈴鳴らせよ。

イトヨ、軒下に下げたままの風鈴を手であおぐ。

**イトヨ**　・・・チロにも見捨てられたんかな、俺は。

と、何かの気配。

**イトヨ**　チロ？

**アカザ**　さむさむさむ。

庭に現れたのはチロではなく、アカザ。買い物袋を提げている。

**イトヨ**　アッちゃん。

**アカザ**　ああ、義兄さん。おったのね。

**イトヨ**　俺ん家じゃから。

**アカザ**　よかった。鍵かかっとったら凍える。

**イトヨ**　大げさな。ないごて木戸口から？

**アカザ**　男んひとが家の前うろうろしとった。

**イトヨ**　うちん前？

**アカザ**　たまたまおったのかもしらんけど。なんか気味悪くて、表から入りきらんかった。

**イトヨ**　まだおる？

**アカザ**　わからん。

イトヨ、庭に下りて表に回る。アカザも一緒についていく。

二人すぐに戻ってくる。

**イトヨ**　通りがかりんひとじゃろか・・・。

**アカザ**　なんか家ん様子うかがっとるみたいじゃったけど。

**イトヨ**　え・・・、

イトヨ、表を少し気にする。

**アカザ**　なんだろ、目がごろごろする。虫が入ったのかな。

**イトヨ**　今さら虫はおらんやろ。

**アカザ**　義兄さん具合はね？

**イトヨ**　え？

**アカザ**　オイカワさんから聞いたのよ。あ、

**イトヨ**　ん？

**アカザ**　睫毛入ってた。

**イトヨ**　虫じゃなくてよかったな。

**アカザ**　オイカワさん今日こっちの配送だったから、昼過ぎのフェリーで。そしたら吉田診療所の近くで義兄さんのタクシーとまっとるのを見た、て。

**イトヨ**　ああ・・・、

**アカザ**　ほら、義兄さんのタクシー、後ろに「個人タクシー・イトヨ」て赤いステッカー貼ってあるでしょ。

すぐわかるんよ。

**イトヨ**　うん・・・。

**アカザ**　風邪ね？

**イトヨ**　え、

**アカザ**　あすこらへんで用があるちゅうたら吉田診療所くらいじゃろ。空き家ばっかで人おらんやん。クリーニングん配送も診療所しかなかもん。おじゃましまーす。

**イトヨ**　ああ、うん、いや・・・、

**アカザ**　風邪ひいたんでしょうが。オイカワさんもよ。しかも蓄膿で頭も重い、て。

**イトヨ**　オイカワさんもいろいろ大変やね。

アカザ、買い物袋からビスケットを取り出す。

**アカザ**　動物ビスケット。

**イトヨ**　ああ・・・、

アカザ、ビスケットを持って隣の部屋へ。

リンの音。

## 【4】

アカザ、戻ってくる。

**アカザ**　で？

**イトヨ**　で？

**アカザ**　熱よ。下がったのね？

**イトヨ**　いや・・・、

**アカザ**　寝とった方がいいんじゃない？

**イトヨ**　アッちゃん。

**アカザ**　なに？

**イトヨ**　電話しようと思ってた。
**アカザ**　え、
**イトヨ**　うん。
**アカザ**　え、なに・・・、あ、なんか、店に用？クリーニング出しとった？
**イトヨ**　いや・・・、あずきクッキー食べるね？昨夜焼いた。
**アカザ**　え、ああ、うん。

イトヨ、台所へ。アカザ、買い物袋を見る。中にはイトヨのために買ってきた食材など。

**アカザ**　あずきクッキー・・・。義兄さん、
**イトヨの声**　ん？
**アカザ**　チロ、どうかしたのね？

イトヨ、湯のみと菓子皿に盛ったあずきクッキーを持って現れる。

**イトヨ**　え、
**アカザ**　さっき呼んどったから。
**イトヨ**　ああ、うん。ほら、
**アカザ**　いただきます。

アカザ、あずきクッキーを食べる。

**アカザ**　美味しかね。
**イトヨ**　もっと固くて美味いんだけどな、ナミコのは。
**アカザ**　義兄さんのも美味しかよ。

**イトヨ**　お世辞やね。
**アカザ**　本当よ。
**イトヨ**　そうや？ナミコ帰ってきたら、ちゃんと習おうかな。

イトヨ、お茶を入れる。

**アカザ**　・・・、チロ、帰ってこんの？
**イトヨ**　おとといから見かけんのよ。
**アカザ**　猫ってさ、あれよね。
**イトヨ**　何ね。
**アカザ**　姿を消すときは命が終わろうとしているとき、って、
**イトヨ**　ああ・・。
**アカザ**　あ、
**イトヨ**　ん。
**アカザ**　なんか、いかんやった。すごい、失言やった。
**イトヨ**　何がね。
**アカザ**　いや・・・。
**イトヨ**　なんね、急に黙りこくって。
**アカザ**　・・・ナミちゃん、チロ可愛がっとったから・・・。
**イトヨ**　・・・。
**アカザ**　なんか、すごい、縁起悪いこと言った、私。
**イトヨ**　アッちゃんの姉ちゃんじゃ。
**アカザ**　え、

**イトヨ**　チロは猫だけど、ナミコは人間。
**アカザ**　うん・・・。
**イトヨ**　・・・アッちゃん。
**アカザ**　うん？
**イトヨ**　今日な、極楽食堂行ってきたんじゃが。
**アカザ**　え、
**イトヨ**　うん。港ん裏ん通りにある、
**アカザ**　吉田診療所じゃなくて？
**イトヨ**　風邪も、ひいとらんし・・・。
**アカザ**　あ、え、ああ、そっか・・・

イトヨ、買い物袋を指す。冷えピタとか、入っている。

**イトヨ**　それ、いろいろ見えとって、言い損なった。ごめんな。
**アカザ**　ああ、これ？ああ、いや、そげなわけじゃなかよ。特売品、特売品。
**イトヨ**　・・・。
**アカザ**　・・・ないごてまた、極楽食堂？
**イトヨ**　うん。
**アカザ**　あん店、なに食べてもとんこつラーメンの味するんでしょ。
**イトヨ**　とんこつラーメン食ったからその辺ちょっとわからんのだけど。
**アカザ**　オイカワさん言ってたが。店にラーメンの匂いが染みついとって親子丼がとんこつ風味だったって。
**イトヨ**　ナミコんことで行ってきた。

**アカザ**　え、
**イトヨ**　ナミコんことで、極楽食堂ん奥さんから電話あって。
**アカザ**　は？え、
**イトヨ**　うん。
**アカザ**　うん、て。義兄さん、なんで、え、極楽食堂とナミちゃんがどう繋がるの？え、電話しようと思ってたって、
**イトヨ**　うん・・・。
**アカザ**　・・・、どういうことね。
**イトヨ**　アッちゃん、波止場ん小舟見たね？
**アカザ**　あのぼろい舟じゃろ。どっからきたかわからんって。
**イトヨ**　うん。
**アカザ**　さっきフェリー降りたら微妙に騒いどったが。駐在さんやら自治会長さんやら。
**イトヨ**　まだおった？
**アカザ**　ひまそうにざわついとった。
**イトヨ**　一応不審船じゃっで。
**アカザ**　あん舟、いつからあるの？
**イトヨ**　今朝見つけたげな。フェリー乗り場ん事務員さんが。
**アカザ**　ふうん。
**イトヨ**　不審船言うて騒いどるけど、おそらく・・・ナミコも乗っとった。極楽食堂ん甥っ子と。
**アカザ**　え・・・、

と、縁側に何かの気配

**イトヨ**　チロ？

**アカザ**　え、

## 【5】

イトヨ、縁側のガラス戸を開ける。

姿を見せたのはサバオ。スズキの甥であり、小舟の乗組員である。

**サバオ**　・・・。

**アカザ**　あ！

**イトヨ**　え、

**サバオ**　イトヨさんちってここっすか？

**アカザ**　義兄さんこいつよ、家ん前で様子うかがっとった、

**サバオ**　サバオです。

**アカザ**　は？

**サバオ**　サバオです。イトヨさんは？

**イトヨ**　自分、だけど・・・。

**サバオ**　ふうん。

サバオ、部屋をみつめる。ナミコが暮らしていた痕を見つめているような。

そして、イトヨを見る。

**イトヨ**　・・・、

**サバオ**　タクシードライバー。

**イトヨ**　そうだけど。

**サバオ**　どこでも行けるんすか？

**アカザ**　さっき表うろついとったでしょ。見とったが。

**サバオ**　そうっすか。

**アカザ**　ここん様子うかがっとったでしょ、あんた。

**サバオ**　サバオです。

**アカザ**　は？

**サバオ**　あんたじゃなくて、サバオ。

**アカザ**　なんかいちいちむかつく。

**イトヨ**　うちに何か？

**サバオ**　ナミコさん、来てないですか。

**アカザ**　え・・・、

**イトヨ**　お守り舟・・・

**アカザ**　お守り舟？

**サバオ**　・・・。

**アカザ**　あんた、ナミちゃんとどういう関係よ？

**サバオ**　あなたはナミコさんのきょうだい？

**アカザ**　ナミコの妹ですけど。

**サバオ**　ふうん・・・。似てますね。顔だけは。
**アカザ**　は？
**イトヨ**　きみ、極楽食堂んスズキさんの甥っ子ね・・・？
**サバオ**　極楽食堂。

サバオ、笑う。
その笑いはシニカルで、アカザの癇に障る。

**アカザ**　え、なんで？なんの反応よ？そん笑いは。何かおかしいわけ？
**サバオ**　（アカザの言葉に反応して）ほんと、似てるの顔だけな。
**アカザ**　はっ？

サバオ、二人を交互に見る。

**サバオ**　イトヨさん、顔が似てれば妹でもいいんすか？
**イトヨ**　え？
**アカザ**　はあっ？？
**サバオ**　まあ、いいや・・・。
**アカザ**　あんた何なのよ！なんであんたがナミちゃんと、
**サバオ**　すんません、ちょっと座っていいっすか・・・

サバオ、少しふらつく。縁側に座る。

**イトヨ**　ナミコはどこね？
**サバオ**　・・・。

サバオ、また笑う。

**イトヨ**　笑うな。

**アカザ**　義兄さん・・・、

**イトヨ**　ナミコはどこね？

**サバオ**　知っとったら来ませんよ。

**イトヨ**　嘘言うな。極楽食堂んスズキさんから聞いたぞ。今までナミコと一緒だったち、言うたんじゃろが。

**サバオ**　島に着くまでは一緒だったてことっすよ。つーか、嘘つきはあんたじゃろ。

**イトヨ**　なに？

**サバオ**　どこにも行けないくせに。

**イトヨ**　何がね。

**サバオ**　あんたぐるぐる回っとるだけでしょ。みんなそうじゃ。・・・極楽食堂て、何が極楽なもんね・・・。

**イトヨ**　・・・。

**アカザ**　・・・、ナミちゃんは今どけおっとね？

**サバオ**　ナミコさんはおらんごとなったんすよ。じゃから・・・ここに、戻ってきとるんじゃなかか、ち思て・・・。

## 【6】

サバオ、それっきり何も言わない。

**イトヨ**　おい、おい。
**サバオ**　・・・すんません、少し、休ませてもらっていいっすか・・・
**アカザ**　どうかあっとね？
**サバオ**　いや・・・。

と言ったきり、サバオ、反応がない。

**イトヨ**　かすかに・・・
**アカザ**　え、
**イトヨ**　腹ん音が。
**サバオ**　・・・。
**イトヨ**　食切れじゃが。
**アカザ**　は？
**サバオ**　・・・。
**イトヨ**　中に入らんね。
**サバオ**　・・・。
**アカザ**　倒れられても迷惑なんよ。
**イトヨ**　上がらんね。ほら。

サバオ、イトヨにつかまって部屋へ上がる。

**イトヨ**　あ。アレルギーはなかや？

**サバオ**　え・・・

**イトヨ**　猫アレルギー。

**サバオ**　は？

**イトヨ**　なかね。

**アカザ**　なんね、猫アレルギーて。

**イトヨ**　なんでんなか。

サバオ、座る。

**サバオ**　・・・。

**イトヨ**　冬ん支度がまだできとらんで。アッちゃんも寒かろ？

イトヨ、隣の部屋へ。

と、隣の部屋でイトヨの携帯電話が鳴る。スズキからである。イトヨ応答。かすかに声が聞こえる。

**イトヨの声**　はいイトヨです。ああ、スズキさん。さっきはどうも。よかった、店ん方に電話しようと思ってたところで・・・、

**サバオ**　スズキ・・・

サバオ、力が出ない。うなだれる。アカザ、買い物袋の中身を見ながら

**アカザ**　何か食べるね？バナナとか、ヨーグルトもあるけど。あと、お豆腐とうどんと、

**サバオ**　うどん。

**アカザ**　うどん好きなのね？

サバオ、真剣にうなずく。

**アカザ**　ははは。作るからとりあえずこれ食べとっきゃん。

アカザ、サバオにバナナを手渡す。

**アカザ**　義兄さーん、台所借りるね。

アカザ、買い物袋を持って台所へ。

## 【7】

**サバオ**　・・・。

サバオ、バナナを食べる。

やがて・・・泣いているようだ。

と、イトヨがストーブを持って戻ってくる。

サバオの様子に気づく。

**イトヨ**　泣くほどバナナが好きなのね？

**サバオ**　・・・（バナナを食べながら）俺に親切にすっとはやめてほしか。
**イトヨ**　は？
**サバオ**　慣れてないんすよ。とんこつまみれ、とんこつ臭い、って言われ続けて。
**イトヨ**　なんの話ね・・・
**サバオ**　からかわれました。子どもん頃は。ほら、残酷なとこあるでしょ、子どもって。
**イトヨ**　そうかな。
**サバオ**　イトヨさん・・・糸ようじとか、言われませんでした？からかう感じで。
**イトヨ**　あ、言われたかも。
**サバオ**　そんなもんすよ、子どもん頃って。
**イトヨ**　きみは、
**サバオ**　サバオです。
**イトヨ**　サバオくんは、子どもん頃からずっとスズキさんところで？
**サバオ**　・・・いろいろあって、まあ・・・。
**イトヨ**　そうね。
**サバオ**　・・・。
**イトヨ**　なんもなか家はなかよ。大なり小なり、あるもんじゃが。なか方がよかけどな・・・。

イトヨ、ストーブをつける。

**サバオ**　俺・・・極楽食堂て名前が好かんで。
**イトヨ**　え？
**サバオ**　本があるんすよ。「極楽」ちゅう地名の出てくる・・・。母ちゃんが読んどった本

で・・・。

**イトヨ**　・・・。

**サバオ**　くちゃくちゃの、黄色か文庫本で。

**イトヨ**　どげな話ね。

**サバオ**　・・・暗ぁか話でした。没落した家の姉がおって。住むところがなくなって、結婚した妹んところへ行くんですけど、妹ん旦那がそん姉を嫌って、追いつめて、それで姉は壊れていく、っていう・・・。

**イトヨ**　それが食堂ん名前と関係あるのね？

**サバオ**　嫁いだ妹が旦那と住んどる場所の地名が「極楽」なんすよ。まあ、そっから食堂ん名前とったわけじゃなかでしょうけど・・・。

**イトヨ**　極楽・・・。

**サバオ**　嘘くさいでしょ、極楽て。何すかね、極楽て。あるんすかね？

**イトヨ**　食堂があるよ。

サバオ、馬鹿にしたように少しだけ笑うが、そのまま黙りこむ。

**イトヨ**　・・・。

**サバオ**　・・・スズキん叔母は俺の母ちゃんの妹です。

**イトヨ**　そうね・・・。

**サバオ**　極楽に住んどる妹と壊れていく姉・・・母ちゃんが、ほんのちょこっとだけ重なってしもて・・・。母ちゃんが、そん、くちゃくちゃの文庫本読んどったて思うと、なんか・・・、ないごてこんなことになってしもたんやろ、て。

**イトヨ**　サバオくん・・・

サバオ　はい・・・
イトヨ　似とった？もしかして・・・。
サバオ　え、
イトヨ　ナミコ。
サバオ　・・・。
イトヨ　いなくなる前、あいつ・・・壊れそうじゃったんよ・・・。

## 【8】

サバオ　・・・だからイトヨさんから離れたんですよ。
イトヨ　え、
サバオ　・・・だから、手もつなげんかったです。一度も。
イトヨ　・・・。
サバオ　・・・俺は、ナミコさんの手、握りたかったけど・・・
イトヨ　・・・。
サバオ　・・・火葬場、憶えてますか？
イトヨ　・・・なんでね、
サバオ　ですよね、思い出したくないっすよね。
イトヨ　・・・。
サバオ　あん日、母ちゃんは隣ん炉で・・・。
イトヨ　え、

**サバオ**　ほら、ふたつ炉があるでしょ、あすこ。
**イトヨ**　・・・、
**サバオ**　・・・収骨ん後、外出たら、ナミコさん火葬場ん横のきゃべつ畑をじっと見てて。駐車場ん葉桜ん下に立って。風があって・・・喪服ん裾がひらひら揺れとった・・・。
**イトヨ**　・・・。
**サバオ**　ひとりで畑見とって、気にはなりましたけど、俺そのまま車に乗ろうとしたんですよ。

アカザ、いつの間にか子ども用の茶わんを持ち、茶の間に戻っている。

**サバオ**　そしたら、手招きされて。日陰にいるはずなのにまぶしそうな顔でした。あん日はすごい、晴れてたから。
**イトヨ**　・・・雲がひとつもなかったが。
**サバオ**　俺、母ちゃんの骨壷持ったままナミコさんの近くまで行きました。
**アカザ**　・・・。
**サバオ**　きゃべつ畑にはきゃべつがたくさんで。ナミコさん、頭蓋骨が並んでるみたいじゃない？って。
**イトヨ**　ナミコが言いそうなことじゃ・・・。
**サバオ**　実際そう言ったんすよ。で、きゃべつ畑見てたら俺もほんとにそんな気がしてきて。怖いっす、って言ったら、怖いことはもっとほかにある、て・・・なんだと思いますか？
**イトヨ**　・・・。
**サバオ**　怖いのは、愛しいひとがきゃべつよりも軽くなってしまう日を経験すること、

て・・・。

**イトヨ**　・・・なんね、それ。

**サバオ**　俺、骨壷抱えたまま、しばらくきゃべつ見てました。母ちゃんはもう、きゃべつよりも軽くなったんだな、て、すごく、そう思ったような気がする・・・。

**イトヨ**　・・・。

**アカザ**　義兄さん、

**イトヨ**　ん・・？

**アカザ**　これ・・・。

アカザ、イトヨに子ども用の茶わんを見せる。

**イトヨ**　ああ、うん・・・。

**アカザ**　スプーンも、フォークも、お箸も、お皿も、お弁当箱も、新しいのが、いくつもいくつも・・・

**イトヨ**　ああ・・・

**アカザ**　食器棚にも、ひきだしにも・・・

**イトヨ**　一番新しかのは、ペンギンのコップかな、水色ん・・・。風鈴と一緒にナミコが買うてきた・・・。

**アカザ**　・・・じゃからナミちゃん、おらんごとなったんかな・・・。

**イトヨ**　・・・、

**アカザ**　やっぱり、そうなのかな・・・。

**イトヨ**　何がね（どういう意味ね）・・。

**サバオ**　・・・。

**アカザ**　チロ飼って、けど、やっぱり、なんか、じっとしとることが苦しくて、怖くて、なんつーか、胸ん奥、とか、頭ん芯では、どうしようもなくて、

**イトヨ**　どうしようもなかことはいくらでんあるじゃろ。

**サバオ**　・・・。

**イトヨ**　わかるやろ？そげなことばっかじゃが。四六時中気にしとったら生きてなんかおられん。

**アカザ**　・・・そんな感じやった？

**イトヨ**　え、

**アカザ**　義兄さん、そんな感じでナミちゃんと暮らしとった？ここで、毎日、二人だけで、祈って、ご飯食べて、眠って、起きて、息して、また祈って・・・。

**イトヨ**　・・・。

**アカザ**　義兄さん、ナミちゃんの顔、ちゃんと見とった・・・？

イトヨ、アカザの顔を見る。

**アカザ**　違うよ。私ん顔とナミちゃんの顔は違うよ。

**イトヨ**　・・・。

**サバオ**　「わたしたちは、みんな、舟に乗ってて、簡単には、降りられないんよ。」

**イトヨ**　・・・ナミコが言ったんか・・・

**アカザ**　・・・。

**サバオ**　降りられないんすよ、俺たちは。

と、玄関の戸をたたく音。

**カネヒラの声**　イトヨさーん、こんちはー、カネヒラですがー。
**イトヨ**　あ・・、はーい。

## 【9】

イトヨ、玄関へ。

**サバオ**　誰っすか・・・。
**アカザ**　たぶん自治会長さん。
**サバオ**　ふうん・・・。

サバオ、アカザを見る。

**アカザ**　なに？
**サバオ**　いや・・・。
**アカザ**　なによ。
**サバオ**　・・・あんひと、お姉さんの旦那でしょ。
**アカザ**　そうじゃけど・・・。

サバオ、アカザを見ている。

**アカザ**　何？
**サバオ**　どんな気持ちなんかな、て・・・。
**アカザ**　は？

**サバオ**　おらんごとなって、あんひとひとりきりになって。
**アカザ**　・・・言うとる意味、わからんのだけど。
**サバオ**　ナミコさん、わかっとったんかな・・・。
**アカザ**　・・・、
**サバオ**　妹ん気持ち。
**アカザ**　え・・、

アカザ、サバオを見る。二人、目が合う。

**サバオ**　じゃから、ここに戻ってこれんのじゃなかですか。どっか行ってしもたんじゃなかですか？

と、イトヨが戻ってくる。

**イトヨ**　・・・ナミコを見たいう情報があったて。駐在さんも一緒じゃった・・・
**サバオ**　どこで見たんすか？
**イトヨ**　リンショウじ寺ん納骨堂。
**アカザ**　納骨堂・・・。
**イトヨ**　声かけたら、逃げたて。小学校まで追いかけたけど、裏ん山に入ってわからんごとなったち。今から消防団が出てくいやいげな。
**サバオ**　・・・。
**イトヨ**　蒸発して、島ん有名人じゃが、ナミコは・・・
**アカザ**　そげな言い方せんでよ！
**イトヨ**　・・・。

イトヨ、立ち上がってナミコを探しに出て行く。玄関が開いて、激しく閉まる。

**アカザ**　・・・そうだとしても、

**サバオ**　・・・。

**アカザ**　あんひとは、これからもナミちゃんと二人で生きて行くて決めとるんよ。なにがあっても、なにを失くしても、それは変わらんの。あずきクッキーも、風鈴も、なんもかんも、絶対なくならんの・・・。

**サバオ**　なんすか、それ・・・。

**アカザ**　ナミちゃん。全部。

**サバオ**　・・・。

**アカザ**　理由も言わんで、黙っていなくなったのに、わけわからんのに、それなのに、それでも、

**サバオ**　・・・。

**アカザ**　あんひとは、ずっと待つんよ。ナミちゃんを。

**サバオ**　・・・。

サバオ、立ち上がり、出て行く。ナミコを探しにいくのだ。

**アカザ**　わかっとるが・・・。

アカザ、黙って座卓の上を片づける。手が止まり、俯く。
やがて立ち上がり、湯のみなどを台所へ持っていく。
茶の間に誰もいなくなる。

アカザ、玄関から駆けて出て行く。ナミコを探しに行くのだ。
溶暗。

## 【10】

時間を知らせる時計の音。
舞台がゆっくりと明るくなる。
とはいえ、夜の闇に変わりはない。
茶の間は電気がついているが、誰もいない。
玄関にスズキが現れる。

**スズキの声**　こんばんは、スズキです。

不在。

**スズキの声**　あの、ごめんください、イトヨさん、帰っとられませんか？

不在。
スズキ、いなくなる。
ややあって玄関が開き、アカザがひとりで戻ってくる。

**アカザ**　・・・。

アカザ、となりの部屋へ。
リンの音。
スズキ、今度は木戸口から入ってきたようだ。
スズキ、家の様子をうかがいながらガラス戸をノックする。
アカザ、茶の間へ戻り、ガラス戸の人影に気づく。

**アカザ**　ナミちゃんっ、

アカザ、急いでガラスを開ける。
そこにいたのはスズキ。

**スズキ**　（アカザを見て）・・・ナミコさん？
**アカザ**　え、
**スズキ**　あ、
**アカザ**　妹、ですけど・・・。
**スズキ**　ナミコさんの？
**アカザ**　ええ・・・・。あの・・・（どちらさまですか）・・・
**スズキ**　あ、すみません、スズキです。極楽食堂の・・・
**アカザ**　ああ！
**スズキ**　はい、
**アカザ**　サバオくん、の・・・・。
**スズキ**　あ、叔母ですが・・・・。
**アカザ**　聞いとります・・・。

**スズキ**　妹さんにもご迷惑をおかけしてしもて、ほんとに・・・

**アカザ**　・・・ああ、ええ、いえ・・・

**スズキ**　明りがね、見えたもんですから、もう戻っとられるかな、て。

**アカザ**　ああ・・・。

**スズキ**　・・・イトヨさんは？

**アカザ**　義兄はまだ、消防んひとたちと一緒に・・・

**スズキ**　ああ、ですね、ですよね・・・、あの・・・

**アカザ**　サバオくん・・・ですか？

**スズキ**　あ、はい。イトヨさんから電話もらって・・・、あの、どこに・・・？

**アカザ**　義兄たちと一緒だと思います。

**スズキ**　ああ、ですか、ですね・・・。

**アカザ**　はい・・・。

**スズキ**　・・・。

**アカザ**　寒かですから、どうぞ。

スズキ、縁側のチロの毛布を見て

**スズキ**　あ。

スズキ、手提げから瓶に入った薬を出す。

**スズキ**　あの、すみませんけども、お水を一杯・・・

**アカザ**　水？

**スズキ**　はい、ちょっと、薬を・・・。

**アカザ**　ああ、

アカザ、台所へ行き、コップを持って戻ってくる。

**アカザ**　どうぞ。

**スズキ**　すみませんねぇ。

スズキ、薬を飲む。

**スズキ**　これ効くんですよ。市販薬なんですけどね。

**アカザ**　何のお薬ですか？

**スズキ**　アレルギーのです。あと、鼻炎とか。

**アカザ**　はあ・・・。あ、寒かですから。

**スズキ**　ですね、ここ開けとると、ね。

**アカザ**　上がってください。

**スズキ**　じゃあ。

スズキ、家に入りながら

**スズキ**　猫アレルギーで・・。

**アカザ**　ああ、

**スズキ**　夕方おじゃましたときにね、鼻水が出だしたもんで。

**アカザ**　義兄さん掃除しとるはずなんですけど、

**スズキ**　ですよね、綺麗かですもん。じゃからなんでかなーち思うんですけど・・・

**アカザ**　はあ。

**スズキ**　どっか近くにおるんじゃなかやろか。
**アカザ**　え、
**スズキ**　チロちゃん。
**アカザ**　え、鳴き声も何も聞こえんですけど。

スズキ、「チロちゃん」と呼びながらあちこち探し始める。
アカザ、縁側へ行き、

**アカザ**　・・・、

猫の毛布に手を触れる。なにか、吸い寄せられたような感じ。
アカザ、動けない。

**スズキ**　姿は見えませんねぇ・・・。

スズキ、アカザを見る。

**アカザ**　・・・。
**スズキ**　どげんかしましたか？
**アカザ**　温かいんです・・・。
**スズキ**　え、
**アカザ**　なんとなく・・・。
**スズキ**　え・・・

スズキ、毛布に手を触れる。くしゃみ。

**スズキ**　・・・ほんと。
**アカザ**　ないごて・・・
**スズキ**　・・・気配ですが。
**アカザ**　気配・・・。
**スズキ**　こんなに気配が残って・・・。愛されとるんじゃね、チロちゃんは。
**アカザ**　・・・。
**スズキ**　くしゃみも出るはずじゃが・・・。

と、スズキ、くしゃみ。

**アカザ**　さっき・・・

スズキ、アカザを見る。

**アカザ**　わたしの顔みて、ナミコさん、って・・・。
**スズキ**　ああ・・・すみません。
**アカザ**　そんなに似てますか？
**スズキ**　いえ、
**アカザ**　いえ・・？
**スズキ**　顔、知らんのですよ。
**アカザ**　え、
**スズキ**　ナミコさんの顔。
**アカザ**　え？
**スズキ**　お会いしたことがなかもんで。

**アカザ**　え、じゃ、ないごて、ナミコさんって（言ったんですか）？
**スズキ**　んー・・・ないごてじゃろ・・・。ナミコさんの家じゃから、かな・・・。
**アカザ**　・・・気配みたいなもんですか？
**スズキ**　ナミコさんが心ん底から愛しとった家、ちゅうか・・・そんな気がしますが。
**アカザ**　スズキさん、そういうのわかるんですか？
**スズキ**　誰でもそうじゃなかですか？思いの度合いによっては残るもんですよ、場所ちゅうのには、なにかしら・・・。んー、痕みたいなもんかな。傷跡も含めて。
**アカザ**　痕、ですか・・・。
**スズキ**　こん家に残っとるのは、もしかしたらイトヨさんの気持ちかもしれんですけど。
**アカザ**　ええ・・・
**スズキ**　・・・たとえば、大好きで懐かしすぎて、じゃから行きたくない場所て、なかですか？
**アカザ**　行きたくない場所・・・
**スズキ**　あと・・・懐かしすぎて、逆に見たくない映画とか。
**アカザ**　どういうことですか？
**スズキ**　悪か思い出じゃったら簡単ですが、好かんから離れる、単純明快でしょ。
**アカザ**　ええ。
**スズキ**　でも、好きなものに近づけないちゅうのは、厄介なんじゃなかですかね・・・。
**アカザ**　・・・よく、わからんです・・・。行きたい場所には行けばよかし、見たい映画は見ればよかて思います。
**スズキ**　そっちんほうがよかですが。
**アカザ**　ですかね・・・。

**スズキ**　私にも姉がおってね・・・サバオん母親ですが。
**アカザ**　ああ・・・。
**スズキ**　二人きょうだいで。
**アカザ**　ええ・・・。
**スズキ**　姉がそげな感じんひとじゃったんです。自分じゃ手に負えないもんを、姉自身の中に飼っとりましたが・・・。
**アカザ**　・・・。

## 【11】

と、玄関から声。

**カネヒラの声**　イトヨさーん、帰っとられますかー。カネヒラですがー。
**アカザ**　あ、（スズキへ）自治会長さんです。あ、（スズキさんちと）一緒ですかね。
**スズキ**　いえ、うちは隣ん地区で・・・。

アカザ、スズキの答えを聞く間もなく玄関へ行き、戸を開ける。

**カネヒラ**　ああ、妹さんですね。お姉さん帰っとられませんでした？
**アカザ**　はい・・・。

カネヒラ、神妙な顔でうなずく。

**アカザ**　みなさんにご迷惑おかけしてしもて・・・

**カネヒラ**　いえいえいえ、もう、ね、心配なこっですね、ほんとに・・。
**アカザ**　ほんと、すみません。あの、不審船騒ぎも・・・。
**カネヒラ**　まあ、よそん国ん舟じゃなくて、よかったですが。ナミコさん見つからんのに
　よかったて言うのもアレですけど・・・。
**アカザ**　今日の捜索は・・・？
**カネヒラ**　一旦打ち切りですが。暗くなったらね、なかなかで・・・
**アカザ**　はい・・・。
**カネヒラ**　イトヨさんは？
**アカザ**　まだ帰っとりませんが。
**カネヒラ**　さっき解散したんですけどね。
**アカザ**　はあ・・。
**カネヒラ**　そうですか、まだですか。
**アカザ**　あの、義兄になにか？
**カネヒラ**　いや、帰ったら家内がね、かきあげを作っとって。
**アカザ**　かきあげ。

カネヒラ、アカザへ風呂敷包みを渡す。

**カネヒラ**　心身の健康は規則正しい食事から、ちゅうのが口癖で。給食センターで働いと
　るもんですから。
**アカザ**　ああ、ご心配おかけして、
**カネヒラ**　すいません、妹さん来とられるから、余計なことだったかもしらんですね。
**アカザ**　とんでもなかです。

**カネヒラ**　よかったら晩ご飯の足しにでも。いりこも入っとって美味しかですよ。元気の出ますが。

**アカザ**　すみません、ほんと、ありがとうございます。

アカザ、風呂敷包みを抱いて頭を下げる。

**カネヒラ**　・・・イトヨさんがこん島にきゃったとき・・・ナミコさんと、ナオくんと、三人で。

**アカザ**　はい・・・。

**カネヒラ**　うちで歓迎会を開きましてね、若い家族がね、島にくるて、そうそうなかことですから。

**アカザ**　ええ・・・。

**カネヒラ**　イトヨさん、酔っぱらって、ナオくんを膝にのせたまま眠ってしもて。

**アカザ**　義兄さん、お酒弱かですもんね。

**カネヒラ**　ほんとに。そしたらナミコさんが、すぐ起きますからって言って、ナオくんをね、横から抱き上げようとしたんですよ。すぐ起きましたが、イトヨさん。「ナオ！」って言って。

**アカザ**　想像できます。

**カネヒラ**　ナミコさん、「おはよう」って。ナオくんと一緒にくすくす笑っとりましたが。イトヨさんも赤か顔して笑っとって。

**アカザ**　ええ。

**カネヒラ**　なーんも、心配することはなか、なーんも哀しかことはなか、そげな、よかー晩でした。

スズキ、茶の間で話を聞いている・・・。

**カネヒラ**　今も、はっきり憶えてますよ。

**アカザ**　はい・・・。

**カネヒラ**　遅かですね。

**アカザ**　え・・・、

**カネヒラ**　イトヨさん。

**アカザ**　あ、はい、ですね・・・。

**カネヒラ**　どけ行っきゃったとじゃろ。

**アカザ**　・・・。

**カネヒラ**　明日、朝から捜索再開ですから。妹さんも今日はよく休んどってください。

**アカザ**　ありがとうございます。

**カネヒラ**　ちゃんと食べて。

**アカザ**　はい・・・。

**カネヒラ**　そしたら、また。

**アカザ**　はい、ありがとうございます・・・。

カネヒラ、出て行く。

アカザ、風呂敷包みを持ったまま、立ちつくす。

スズキ、うなだれる。

## 【12】

と、縁側のガラス戸が開き、サバオが顔を出す。

**スズキ**　サバオ！
**サバオ**　あ・・・。
**スズキ**　どけおったんね。イトヨナミコさんはどこね。
**サバオ**　わからん・・・。
**スズキ**　わからんて、あんた、一緒に島にもどってきたんじゃろが！
**サバオ**　じゃから、今まで探しとったんじゃ！
**アカザ**　義兄さんは？
**サバオ**　ああ・・・、もう帰ってくるち思います・・・。
**アカザ**　・・・、
**スズキ**　なんか、ほら、手掛かりなっとなかのね？
**サバオ**　なか！・・・お守り舟んとこじゃと思うて行ってみたけど、おらんかった。裏山ん全体消防んひとたちが探しとったけど、おらんて・・・。
**アカザ**　・・・、お守り舟て？
**スズキ**　小学校ん裏山ん祠に、お地蔵さん乗せたみどり色ん舟があっとですよ。こんくらいの（と手振り。小さい）
**アカザ**　ないごてナミちゃんがそこにおるて・・・？
**サバオ**　地蔵菩薩がお守り舟に乗ってやってきて、救ってくれる、て・・・話したことあ

るから・・・。

**スズキ**　あんた憶えとったのね・・・。

**サバオ**　・・・おばちゃん、

**スズキ**　ん？

**サバオ**　救うて、何をじゃろか。何から救ってくれるんじゃろか、お地蔵さんは。何ね？

俺らが生きとることそのものからね？じゃとしたら・・・

**アカザ**　・・・。

**スズキ**　じゃとしたら、何ね。

**サバオ**　お守り舟とか言うとること自体、気休めでしかなか。

**スズキ**　そげなこと、言うもんじゃなか。

**サバオ**　じゃあ、救ってくれよ。

**スズキ**　サバオ・・・、

**アカザ**　・・・。

**サバオ**　何から救ってほしいんかも、わからんくて、もうどうしようもなかね、俺も、ナミコさんも・・・。

**スズキ**　・・・、

**アカザ**　・・・、お腹すいとるからよ。

**サバオ**　え・・・、

**アカザ**　お腹すくとろくなこと考えんのよ。

**サバオ**　・・・。

**アカザ**　（スズキに）最初こけ来たとき、食切れじゃったんですよ。

**スズキ**　食堂ん息子が食切れて。

**サバオ**　息子じゃなかやろ・・・。
**スズキ**　今さら何を言うとっとね。もうあんたは息子じゃが。
**サバオ**　・・・。
**アカザ**　うどんじゃったね。かきあげもあるよ。

アカザ、台所へ。

## 【13】

**スズキ**　うどんじゃって。
**サバオ**　・・・。
**スズキ**　あんた、子どもん頃からうどん好きだがね。
**サバオ**　・・・。
**スズキ**　食堂ん隅に座って、よう、うどん食べとったが。
**サバオ**　とんこつん味がした・・・。
**スズキ**　かつお出汁じゃが。
**サバオ**　とんこつ臭かったが。
**スズキ**　そうね・・・。
**サバオ**　けど、美味かった・・・。
**スズキ**　そうね・・・。
**サバオ**　・・・。

**スズキ**　ナミコさんの息子さんね、お守り舟見て、お地蔵さんは海に落ちたら沈んじゃうのに、て心配しとたって。

**サバオ**　・・・。

**スズキ**　イトヨさんが、言うちょいやった。

**サバオ**　・・・。

**スズキ**　サバオ、立ち入れんもんはあるんよ。あんたがどれだけ、ナミコさんのことを想うとっても、

**サバオ**　立ち入れんもんて何ね。

**スズキ**　ナミコさんしか辿りつけん場所よ。

**サバオ**　は？

**スズキ**　辿りつけん場所抱えて、それでも大事にしてきた暮らし。

**サバオ**　・・・暮らしから離れたくて、ナミコさんは俺と一緒に島を出たんじゃが。

**スズキ**　好かんで出たんじゃろか・・・

**サバオ**　・・・。

**スズキ**　あんたは・・・そうじゃったんかもしらんけどね・・・。

**サバオ**　・・・、

**スズキ**　なんでも自分と同じに考えとったら、それは違うよ。

**サバオ**　じゃあ、あんひとはどうなんよ？

**スズキ**　イトヨさんね？

**サバオ**　ナミコさんのこと、わかっとったて言えるんか？

**スズキ**　じゃから、近くにおってもそうなんよ。

**サバオ**　なんなんね、おばちゃん、はっきり言わんね。

**スズキ**　夫婦だから、家族だから、なんでもわかるんかちゅうたら、そうじゃなかてことよ。私は・・・姉さんのことがわからんかった、最期まで。

**サバオ**　・・・・。

**スズキ**　じゃから、あんたんことを芯からわかりたいけど、やっぱりうまくいかん。

**サバオ**　なんね、それ・・・。

**スズキ**　あんたん体ん中にも、おばちゃんの体ん中にも、姉さんの体ん中にも、ナミコさんの体ん中にも、本人にしか辿りつけん場所があるんよ。それでも、私たちは繋がろうとする。けど、届かん。届かんくても、繋がろうとする。それしかできないんじゃち、思う。

**サバオ**　・・・・。

**スズキ**　ナミコさんはあんたんことをわかろうとしとったね・・・？

**サバオ**　・・・・わからん。

**スズキ**　・・・・。

**サバオ**　・・・・。

**スズキ**　・・・明日は、見つかるといいがね。

**サバオ**　・・・うん。

**スズキ**　無事に、見つかるといいがね。

## 【14】

と、玄関が開き、イトヨが帰ってくる。

**イトヨ**　・・・。
**アカザ**　義兄さんっ、
**イトヨ**　ああ・・・
**スズキ**　イトヨさん・・・。
**イトヨ**　ああ、どうも。
**サバオ**　・・・遅かったっすね。
**イトヨ**　ああ、ちょっと・・・。
**サバオ**　ちょっとて？
**スズキ**　サバオ。
**イトヨ**　波止場見えるとこ、行ってきた。海岸の、自販機んそばの。
**アカザ**　なんかあるの？そこ。
**イトヨ**　何もなかよ。ナミコがよくそっから海やら波止場やら見とったから。
**アカザ**　そっか・・・。
**イトヨ**　買い物帰りに、サンダル履きで。
**サバオ**　・・・。
**スズキ**　今日はもう捜索打ち切りになったて・・・。
**アカザ**　さっき自治会長さんがきゃったの。
**イトヨ**　ああ、暗かですから、もう、ばったりで・・・。
**スズキ**　山ん中だと、ねぇ・・・
**イトヨ**　明日朝からまた探してくいやいみたいで・・・申し訳なかこっです。アッちゃん、
　フェリーん最終、間に合わんかったね。
**アカザ**　ああ、うん・・・。

**イトヨ**　ごめんな。

**アカザ**　ううん。こげなときじゃもん・・・。

**イトヨ**　ごめん・・・。

**アカザ**　なんで謝るの？

**イトヨ**　・・・。

**アカザ**　大丈夫よ、明日日曜でそげん忙しくなかし、朝はオイカワさんもおるし・・・。

**サバオ**　泊まるとこあるんすか？

**アカザ**　・・・。

**イトヨ**　・・・。

**スズキ**　・・・あ、よかったらうちに泊まるね？

**アカザ**　え、

**スズキ**　店はとんこつん匂いがするかもしらんけど、家はね、大丈夫ですから。狭かけど、よかったら。

**イトヨ**　お願いしてもよかですか？

**スズキ**　どうぞどうぞ。

**イトヨ**　助かります。

**アカザ**　・・・すみません。

**サバオ**　・・・。

**スズキ**　よかのよかの、そしたらお客さん布団出さんと。

スズキ、立ち上がる。

**アカザ**　あ、うどん、もうつゆが煮えましたけど、

**イトヨ**　うどん？

**アカザ**　サバオくんが食べたいて言うたから・・・。

**イトヨ**　ああ、そうや。

**サバオ**　（スズキに）帰るの？

**スズキ**　うどんまでご馳走になれんが。帰ってちょっと片づけんと。

**アカザ**　すみません、ほんと。

**スズキ**　いえいえ、お客さんくるの久しぶりじゃから、なんかね、嬉しいですが。あ・・・、

**イトヨ**　スズキさん？

**スズキ**　すみません、こげなときに、嬉しいとか・・・。

**イトヨ**　いえ・・・。

**スズキ**　場所、わかりますか？

**イトヨ**　ああ、自分が送っていきます。

**アカザ**　・・・。

アカザ、台所へ。サバオ、アカザを目で追う。スズキは玄関へ。

**サバオ**　・・・。

**スズキ**　ですか、そしたら、今日はこれで・・・

**イトヨ**　すみません、お世話になります・・・。

イトヨ、頭を下げる。

**スズキ**　サバオ、うどんご馳走になったら、あんたも帰ってこんと。

**サバオ**　・・・。

スズキ、頭を下げて帰っていく。

**サバオ**　・・・。

**イトヨ**　サバオくん、うどん好きなのね？

**サバオ**　・・・帰ります。

**イトヨ**　え、うどんは？

**サバオ**　ちゃんと、送ってきてください。

**イトヨ**　・・・。

サバオ、台所を見る。イトヨも見る。

**サバオ**　・・・また、明日ん朝に・・・。

**イトヨ**　ああ、じゃ・・・。

サバオ、静かに出て行く。
イトヨ、台所を見る。
が、声はかけない。
イトヨ、となりの部屋へ。リンの音。
イトヨ、戻ってくる。
縁側へ行き、ガラス戸を開け、風鈴を手であおぐ。

**イトヨ**　・・・。

と、照明が少し変化する。

部屋の端、茶の間を挟んでナミコが立っている。

**ナミコ**　ソータさん。

イトヨ、振り向く。

**イトヨ**　・・・、ナミコ・・・

**ナミコ**　何が悪いとか、何があったとか、そういうことじゃなくて、ただわたし、降りられないことに気づいてしまったんよ。

**イトヨ**　・・・、

**ナミコ**　前の晩に、お風呂の窓の外から蝉のなきごえが聞こえた気がした。その蝉の声は、昔きいたことがある声だった。小さいころね。まだソータさんと出会う前に聞いた声。

**イトヨ**　何言っとる・・・？

**ナミコ**　庭ん桜の木から聞こえとった。かき氷に牛乳掛けて、それ食べながら聞いたの。膝小僧の裏が汗でべとべとしとって、時計が鳴った。ボーン、ボーン、って。早くプールへ行かなきゃ、って思いながらかき氷を食べたの。蝉が、鳴いとった。

**イトヨ**　・・・。

**ナミコ**　繰り返されるて思うとったんよ。

**イトヨ**　何がね・・・。

**ナミコ**　ソータさんと、小さいナオと、三人でフェリーに乗ってこん島にきて、あの日は、空が高くて、海はどこまでも凪いどって、陽が反射して、輝いとった。ソータさん、ナオに、かっこいい帽子買ってやるからもう泣くな、って。ふふふ。ナオの手をひいて、

フェリー降りて。そんまま浜辺まで歩いていって、海見ながら、三人でお弁当、食べたのよ。

**イトヨ**　・・・。

**ナミコ**　こんな夏が来年も再来年もくるんやろな、って思った。けど、それは怖いことでもあったの。

イトヨ、言葉にならない。

**ナミコ**　夏がくる前やった・・・ソータさんと二人になった日。わたし、怖くて仕方なくなったんよ。

**イトヨ**　・・・だから、何がね？

**ナミコ**　いつか、ソータさんもいなくなる日がきたら・・・、って。

**イトヨ**　・・・、

**ナミコ**　・・・蝉の声聞いた次ん日、買い物帰りに海を見とったの。そしたら、波止場にソータさんのタクシーが見えた。ああ、フェリーから降りたんだな、今日は本土で仕事しとったんだな、って。ソータさんは、もうすぐ家に帰ってくる。ただいま、って言ってくれる。くりかえされてきた、ただいま。ソータさんの。もう、十分だと思ったの。

**イトヨ**　十分て、何が！

**ナミコ**　もう十分、幸せだったな、って、思ったんよ。

**イトヨ**　・・・ナミコ、

**ナミコ**　海はやっぱり凪いどって、水平線の向こうがどこまでも霞んで見えた。このままじゃわたし、降りることができない、降りなきゃ、って。

**イトヨ**　・・・、

**ナミコ**　それだけなんよ。
**イトヨ**　それだけて・・・
**ナミコ**　自分勝手なんよ、わたしは。
**イトヨ**　ないごて話さんかった？そげん、怖がっとったのに、ないごて？
**ナミコ**　・・・。
**イトヨ**　ナミコ、
**ナミコ**　・・・。
**イトヨ**　俺はどこにも行かんぞ。

ナミコ、微笑んでイトヨを見ている。

**ナミコ**　ソータさん、
**イトヨ**　・・・、
**ナミコ**　ありがとう。
**イトヨ**　ナミコ、おい！

照明戻る。
と、そこにいたのは、ナミコではなくアカザ。

**アカザ**　義兄さん？
**イトヨ**　ああ・・・、
**アカザ**　どうしたの？
**イトヨ**　いや・・・、
**アカザ**　明日ん朝んご飯、しかけたから。寝る前にスイッチ押してね。

**イトヨ**　ああ、ありがとな。
**アカザ**　うん・・・。
**イトヨ**　うん・・・。
**アカザ**　・・・サバオくんも帰ったのね。うどんのおつゆ煮たのに。
**イトヨ**　ああ、俺は食べるよ。
**アカザ**　うん。かきあげもね、あるんよ。自治会長さんが持ってきてくいやって。
**イトヨ**　そうね。
**アカザ**　うん。
**イトヨ**　食べてから送ってくか。
**アカザ**　うん・・・。
**イトヨ**　よし。

イトヨ、台所へ行こうとする。

**アカザ**　義兄さん・・・。
**イトヨ**　ん？
**アカザ**　帰ってこんかと思った。
**イトヨ**　え、
**アカザ**　サバオくん帰ってきたけど、義兄さんは帰ってこなくて、ナミちゃんがおらんごとなったから、義兄さんもおらんごとなったんじゃないか、て。もう、帰ってこないんじゃないか、て。
**イトヨ**　・・・ここは俺の家よ。
**アカザ**　うん。

**イトヨ**　俺の帰る場所。
**アカザ**　うん。
**イトヨ**　俺が、ナミコを待つ場所。
**アカザ**　・・・、
**イトヨ**　俺はまだ、降りないよ。
**アカザ**　うん・・・。
**イトヨ**　じゃからあっちゃん。
**アカザ**　・・・、
**イトヨ**　もうひとりでここには来るな。

アカザ、イトヨを見ている。

**アカザ**　・・・うどん、注ぐね。
**イトヨ**　うん。

アカザ、台所へ。
イトヨ、外を見る。

**イトヨ**　明日も冷えるかな・・・。

鈴の音が遠く聞こえたような・・・。

**イトヨ**　チロ？

イトヨ、縁側に佇む。

ガラスの向こうは闇。
ひとりきり、ガラスに映る自分を見ている。

おしまい

（参考）新潮文庫「欲望という名の電車」テネシー・ウィリアムズ（著）・小田島雄志（翻訳）

# あとがき

希望の大地の戯曲「北海道戯曲賞」は、本道の舞台芸術における優れた人材発掘・育成と創造活動の活性化をめざし創設いたしました。

全国から58作品の応募があり、平成26年12月23日（火）に公益財団法人北海道文化財団内アートスペースにて非公開で第2次審査会が行われ、第1次審査通過の7作品から、大賞作品1本と優秀賞作品1本が決定いたしました。

その後、審査員を担当された前田司郎氏の手により、受賞作品のリーディング公演が行われました。この戯曲集にはその受賞作品が集録されています。

**作品応募数**　道内20件／道外38件／合計58作品

**第1次審査通過作品**

- 粟飯原ほのか「あなたとのもの語り」（神奈川）
- イトウワカナ「薄暮（haku-bo）」（北海道）
- 加藤英雄「ムカイ先生の歩いた道」（東　京）
- 島田佳代「乗組員」（鹿児島）
- 戸塚直人「私の父」（北海道）
- 藤原達郎「悪い天気」（福　岡）
- 福谷圭祐「終末の予定」（大　阪）

＊五十音順＊

**第2次審査員**

長田　育恵／斎藤　歩／土田　英生／畑澤　聖悟／前田　司郎　＊五十音順＊

※集録した戯曲の上演及び複製をご希望の方は、当実行委員会に対し利用許諾申請が必要となります。詳細は当実行委員会にお問い合わせください。

**お問い合わせ**

北海道舞台塾実行委員会
〒060-0042　札幌市中央区大通西5丁目11　大五ビル3F
TEL　011-272-0501／FAX　010-272-0400（公益財団法人北海道文化財団内）

希望の大地の戯曲

# 北海道戯曲賞

## 平成 26 年度受賞作品集


発行日　平成 27 年 3 月

発　　行　北海道舞台塾実行委員会
（公益財団法人北海道文化財団、北海道）
〒 060-0042
札幌市中央区大通西 5 丁目 11　大五ビル 3F
TEL 011-272-0501 ／ FAX 010-272-0400
（公益財団法人北海道文化財団内）

助　　成　一般財団法人地域創造

デザイン
印　　刷　白馬堂印刷株式会社